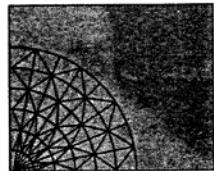


モノグラフ・高校生'86

vol.18 高校生の生活時間



目次

はじめに	深谷昌志	2
テーマ設定 一若者論と高校生文化一		2
サンプルの概要		4
本報告書の要約		5
第Ⅰ章 朝起きてから登校まで		6
1. 朝食を食べているか		6
2. 朝の時間帯		8
第Ⅱ章 学校生活		11
1. 遅刻する生徒		11
2. 授業中の気持ち		14
3. 放課後の時間		17
第Ⅲ章 帰宅してから		22
1. だんらんとしての夕食		22
2. 家庭学習		27
3. 家庭での余暇		30
4. 休日の暮らし		36
まとめに代えて		41
資料1 調査票見本		42
資料2 基礎集計表		60

*おことわり 本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。



はじめに

テーマ設定

若者論と高校生文化

放送大学教授 深谷昌志

怒れる若者たちという図式

このところ、さまざまな青年論が提起されている。小此木啓吾氏のモラトリアム説が先駆けをなす理論であろうが、若者たちのさまがわりが目につき、従来の青年論ではそうした若者の姿を説明できない。こういった事情から青年論ブームとなったのであろう。

青年論としては、とりあえず、怒れる若者たちという構図がうかんでくる。既成の社会秩序、つまり、エstablisment establishment に組み込まれまいと、肩をいからせて反抗するスタイルである。文学に素材を求めるなら、石原慎太郎の『太陽の季節』がそうであろうし、映画ならばジェームス・ディーンのふんする若者や、『ウェストサイド物語』に登場する若者の姿も、若者らしい自己主張をベースにしている。

たしかに、こうした怒れる若者像は理解しやすい。つまり、未来を担う若者たちは既成の秩序に組み込まれていないので、過去を批判し、理想を求めて現実の改革をしようとする。その結果、ある者は傷つき、他の者はすばやく変身していく。

しかし、歴史的な系譜をたどると、反抗する若者の姿がそれほど普遍的でないのに気づく。もともと、青年という概念は近代化の産物といわれる。つまり、前近代社会では子どもとおとの区別だけがあり、一定レベルの

力量の持主とわかれば、子どもがただちにおとなになる。さまざまな社会にそうした力量をためした後の区切りとして成人式が認められるのが、その例証となろう。

近代化が始まると、日本の明治維新がそうであるように、既成の秩序が否定されるが、それにもかかわらず、既成の体制の中に新しい秩序を築く力量に乏しい。こうした事情から、若い力が求められ、青年が秩序を築く原動力となる。明治維新の担い手となり、そして、日本の近代化を促進させたのが下級士族を母胎とした20代前半の若い人々の群れであったのは史実の示すとおりである。こうした場合には、司馬遼太郎の描く『坂の上の雲』に登場する若者のように、若者は使命感に燃え、青雲の志を抱いて新しい社会を築こうとする。そこには、怒れる若者につきものの、怒りや挫折を認めがたい。

現代でも、シンガポールやマニラなど、発展途上の国々の大学へ行くと、こうした大志を抱いた若者の姿に接する。そして、自分たちの力で未来への展望を切り開いていくというような決意を聞かされる。

しかし、こうした社会も安定するにつれて、社会の中にも人材が育ち、若者は、原動力としてではなく、秩序を認めた上での新参者の扱いになる。そこから、自分たちの主張が認められないという若者らしい反撃が生まれ、肩いからせた若者像が出現する。

こうした若者の姿は、昭和40年代前半の大學生争の終えんを契機として、日本の社会から見かけなくなった。造反有理やら知性の叛乱、そして、不条理などといった用語に、ある種の感慨がわくのは、かつてのひたむきな若者たちが姿を消したことへの追憶の気持ちなのであろうか。

怒らぬ若者の登場

怒れる若者から怒らない若者への変遷にもいくつかの節目が見いだされる。庄司薰の『白鳥の歌なんか聞えない』などのシリーズに登場する主人公は、もはや怒りをあらわにしない。しかし、心の奥底には、若々しい潔べきで社会を見つめる鋭い批判力や感受性がある。したがって、人なつこい外面からうかがい知れないほど、内面的には怒りを宿している。

しかし、三田誠広の『僕って何』や栗本薰の『ぼくらの時代』あたりになると、内面的な怒りが消える。そして、自分らしさの形成、つまり、アイデンティティに心をよせることなく、感覚のままに日々を送り始める。田中康夫の『なんとなくクリスタル』は、まさに、こうしたフィーリング世代の若者をたくみに描写した作品であろう。

このように、外的的に怒らないだけでなく、内面的にもこだわりを持たずに、感覚のおもむくままに行動していく若者たちが誕生した。それでも、若者は心の奥で自分らしさを探し求めているのではないか。

こうしたところから、中野収の「カプセル人間」論が提起される。これは、弱々しい自我を守るために、若者たちは、透明のカプセルへ入り、外からの刺激を防ぎつつ、浮遊していくという図式である。

こうした延長線上に、笠原嘉のオブローモフなどの指摘もみられる。ゴンチャロフの『オブローモフ』に登場する主人公は、豊かな環境で暮らすうちにやる気を失い、ベッドで毎日を過ごすようになる。しかし、最近では、こうした浮遊は、決して逃避でなく、軽さや

変身のすばやさ、こだわりのなさなどが若者らしさだと積極面を評価するものが多い。

怒りの代わりにこだわりのなさ、ネクラに代わってネアカ、禁欲を捨てて享樂、集中を放棄し多面へ、などが変貌した若者の姿になる。

浅田彰の「スキゾ・キッズ」は、これまでの若者はひとつのことに執着するパラノイア（固執性）タイプであったが、その折り折りに、一見したところ分裂しているように反応するスキゾ（分裂）が現代の若者らしさだと説く。また千石保は、国際比較の結果をふまえて、表現主義に若者の個性を見いだしている。表現主義 expressivism とは自分らしさを出発点とするミームズに象徴されるという。

さらに吉成真由美は、DNA のなかにあって、ショットチュー切れではまた別の場所に移動する遺伝子・トランスポゾンに若者の行動が近いという。すべてのことに軽くコミットして楽しみ、周囲が騒ぐ頃にはまた次のところへポーンとジャンプする身の軽さが、トランスポゾン世代の特性で、そこには、暗さやしらけは認められないという。

高校生はどう変わったか

これまで見てきたように、若者たちのさまがわりをどうとらえるかについては、さまざまな仮説が提出され、それなりに納得できる反面、なんとなく一般化を急ぎすぎている感じがする。もちろん変化を敏感にとらえ、そこから理論化を試みるのは当然であろうが、変化にふりまわされ、今後の方向性が明瞭でない印象を受ける。

考えてみると、現代の若者たちは、これまでのおとなとはまったく異質な環境の中で成長している。テレビを子守り唄代わりに育つ成長のスタイルが始まったのは、昭和37~9年頃であるから、こうした育ち方をした一期生が、ようやく大学を卒業したにすぎない。そして、マスメディアにふれずに成長しているという意味では、江戸や明治、大正も、さらに昭和30年代前半までの昭和も、同じカテゴリーに入る。そして、飢えなどの不足感を

まったく味わわずに育ってくる点も、それまでの若者と異質になる。

豊かな情報化社会の中で育つとは、つねに充足した環境のもとで自分から行動しなくとも情報がとびこんでくる生活を送ることであろう。こうした成長をたどれば、閉ざされた社会の中で慢性的な不足感を抱いて育つのと、まったく異質のタイプが誕生するのも当然であろう。

そして、こうした若者論は大学生についてあてはまる部分が多い。ところが高校生については、軽さや変身が感じられない印象を受

ける。もちろん、生徒たちも現代の若者らしい面を持っているのであろうから、学校とのつながりの深いところでは、トランスポゾンのように学校に適応する。そして、教師の姿のないところでは、若々しさを發揮しているのかもしれない。

そこで、こうした学校と距離をおいた生徒たちの素顔を、とりあえず、行動のレベルからとらえようとしたのが本調査である。はたして生徒たちの行動に、スキゾ・キッズやトランスポゾンなどのエイリアン（異星人）ぶりが認められるのであろうか。

サンプルの概要

(人)

性 別 学 年 \	男 子	女 子	計
1 年	368 (45.7%)	437 (54.3%)	805
2 年	706 (51.8%)	657 (48.2%)	1,363
計	1,074 (49.5%)	1,094 (50.5%)	2,168

調査対象 東京・千葉・神奈川・福島の普通高校 6 校

調査時期 昭和60年12月実施

本報告書の要約

① 起床

目ざましで起きる者が41%、母親に起こしてもらう者が32% (P. 7 図1)。

② 朝食

朝食を必ず食べる者が76%、時々食べないことのある者が8%、欠食がちな者は16%である (P. 7 図2)。

③ 朝の時間帯

起きてから家を出るまでの時間は30~45分が31%であり、58%と6割近い生徒が、起きてから30分~1時間で登校していく (P. 9 図5)。

④ 遅刻

遅刻しがちな生徒は、「週に1回ぐらい」の4%を含めて、9%とほぼ1割に達する (P. 12 図9)。

⑤ 授業

進学希望者は熱心に授業を聞いているが、非進学者はほんやりと時間を過ごす (P. 17表4)。

⑥ 下校

まっすぐ帰宅する生徒は26%。46%と半数近くは、部活動に参加し、中には2時間以上スポーツをしている生徒の姿もみられる (P. 18図11、12)。

⑦ 予備校

現役のうちから予備校へ通っている者は、15%で、特に成績上位で、むずかしい大学への進学を希望する者の予備校通いの割合は2割を超える (P. 20図14)。

⑧ 夕食はだれと

「家族全員で」が33%、これに、「父だけ不在」の26%を含めると6割の家庭で、一家だんらんの食事が始まる。しかし、部活動や予備校などの関係からひとりで夕食をとる者も14%に達する (P. 23図15)。

⑨ 家庭学習

平均すると1時間だが、進学を考えているかどうかで勉強時間の長さがことなる (P. 28 図20)。

⑩ ながら勉強

全体として、ながら勉強をしている生徒は少ないが、音楽をききながらは36%に達する。とくに、非進学者に多い (P. 29表8)。

⑪ 睡眠時間

全体としては6~7時間と決して短くはないが、進学を考え始めると、睡眠時間は短くなる (P. 35表12)。

⑫ 休日の起床

8時までが33%、10時以後に起きてくる者も17%を数える (P. 37図28)。

第Ⅰ章 朝起きてから登校まで



1. 朝食を食べているか

高校生の一日は起床から始まる。

6時前……………14.5%

6時半まで………33.4%

7時前……………24.8%

7時半まで………26.9%

8時まで…………0.4%

学校までの所要時間にもよるが、4分の3の生徒たちは7時までに起床している。眠たいさかりの年齢であるから、どういう起床のしかたをしているかが気がかりとなるが、図1のように、「自然に」が23%、「目ざまし時計で」41%、「母親に」が32%となる。

高校生にもなって、母親に起こしてもらっている者が3割を超えているが、これを属性

別にクロスさせると、以下のとおりとなる。

母親に起こしてもらう割合 (%)		
(全体…31.7)		
①性別	男子…31.5	女子…32.3
②学年別	1年…34.3	2年…30.2
③成績	{ 上…35.6 中…30.2	{ 中の上…35.6 中の下…29.5
④母親の仕事	{ 専業主婦…33.2 フルタイム…27.1	{ パート…36.3 自営…29.9

母親が働いていたりすると、さすがに母親に起こしてもらう者の割合が減るが、それでも、いずれの属性についても、母親に頼るタ

イブが3割近く認められる。

起床のあとは、当然食事になるが、朝食は図2のとおりに、4分の3の生徒は「必ず食べる」と答えている。しかし、残りの4分の1は、程度の差こそあれ、食事をとらずに登校している。この4分の1を多いとみるか少

ないと考えるかは微妙なところだが、「1週間に1~2度食べないこともある」の8%を除くと、15%程度が本格的な欠食派となる。

決して低いとはいえない数値だが、生徒たちの生活リズムが崩れているのを危惧していただけに、朝食をとっている生徒が思ってい

図1 朝の起き方
—母に起こしてもらうは3割—

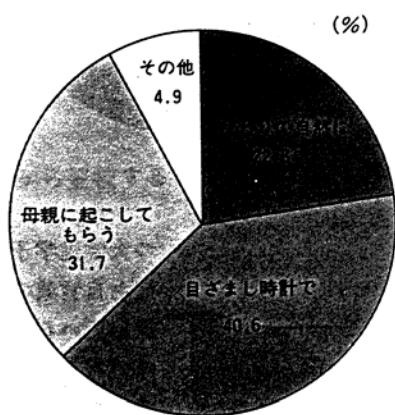


図2 朝ごはんを食べているか
—必ず食べるが4分の3—

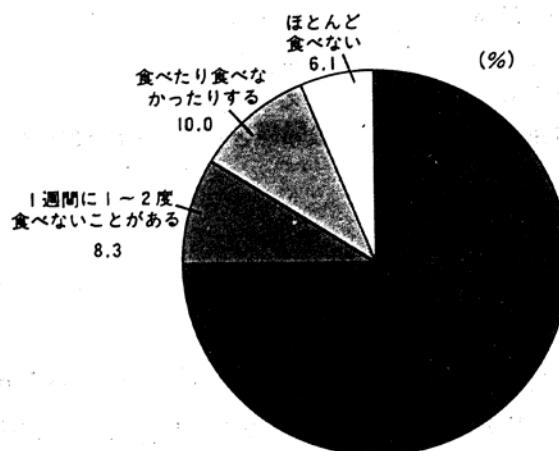
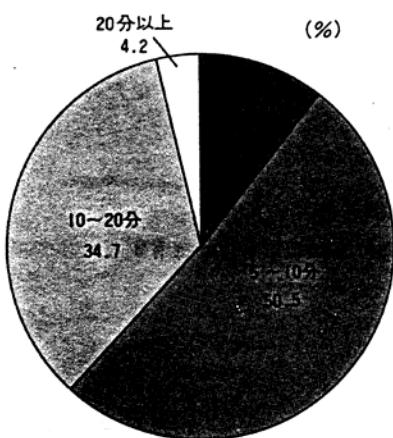


図3 朝食の時間

—5~10分かけて—



たより多い印象を受けた。

—朝食を食べない生徒 (%) —

(全体…16.1)

- | | | |
|---------|--|---------|
| ①性別 | 男子…15.7 | 女子…16.4 |
| ②学年別 | 1年…18.1 | 2年…15.1 |
| ③母親の仕事 | { 専業主婦…12.9
パート…15.6
フルタイム…17.2
自営…20.1 | |
| ④希望する進路 | { 就職…17.2
専門学校…18.4
短大…18.0
やさしい大学…12.3
むずかしい大学…16.8 | |

こうした傾向を図式化してまとめると、「朝食を食べてくる生徒=専業主婦の母を持

つ大学進学予定の男子」、「朝食を食べない生徒=自営業の家庭で、専門学校への入学を希望している女子」となる。もちろん高校生なのであるから、親が用意していないとも自分できちんと食事をとるべきなのであろうが、現実には母親が朝食の準備をしてくれているかどうかで、子どもの朝食が決まる感じがする。

そして、食事の時間は5~10分がほぼ半数に達するが(図3)、これは朝食がトーストにジュース、みそ汁にご飯など、軽くなっていることと考えあわせると、ある程度までやむをえまい。なお、生徒たちの中で、ひとりで食事をとっている者は31%を数える。

2. 朝の時間帯

朝の時間は、どこの家庭でも戦場のような忙しさであろう。洗面、トイレ、食事と、時計をみながらスケジュールをこなし、あわただしく家を飛び出していく。したがって、図4のように、朝起きてから「ゆったり時間がある」が35%で、「忙しい」が65%という数

値も納得できる。なにしろ、図5のように、大半の生徒は長くても小1時間しか朝の時間を持っていないので、あわてふためいて朝食を食べているのであろう。

なお念のために、朝起きてから家を出るまでにすることをたしかめてみると、図6のよ

うになる。テレビを見ながら朝食をとり、その合間に新聞に目を通し、学校へ行く支度をすると時間がなくなってしまうという感じである。しかし、数は少ないながら、朝食の準備やあとかたづけをしたり、弁当を作ったりする生徒の姿もみられる。したがって、大多数の生徒が親がかりの生活を送っているのはたしかだが、子どもなりに手伝ったりしている生徒が1割、「時々する」を含めて甘めに評価すると、そうした生徒は全体の2割を占めるように思える。

朝食のあとかたづけを いつもする生徒 (%)		
(全体…14.0)		
①性別 男子…12.3	女子…15.6	
②学年別 1年…10.9	2年…15.7	
③母親の仕事 専業主婦…10.5	パート…14.8	
フルタイム…12.5	自営…16.8	
④希望する進路 就職…17.2	専門学校…15.8	
短大…15.3	やさしい大学…11.6	
むずかしい大学…15.0		
⑤成績 上…19.0	中の上…12.6	
中…12.2	中の下…15.4	

図4 起きてから登校するまで時間に余裕があるか
—忙しいが65%—

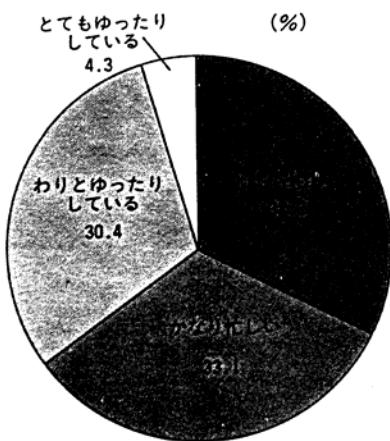
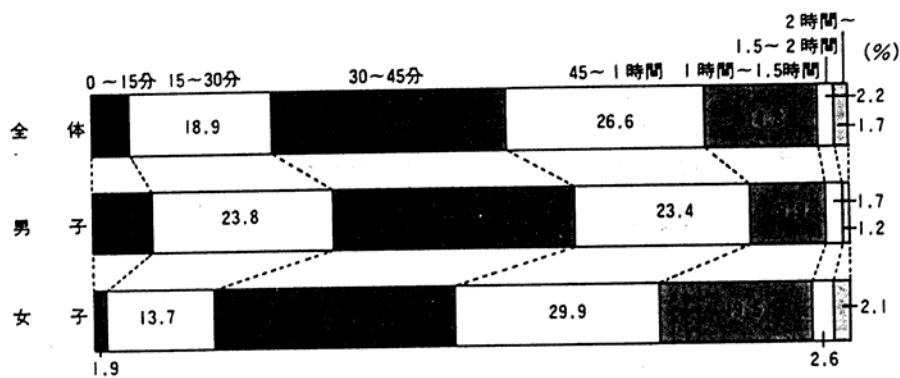


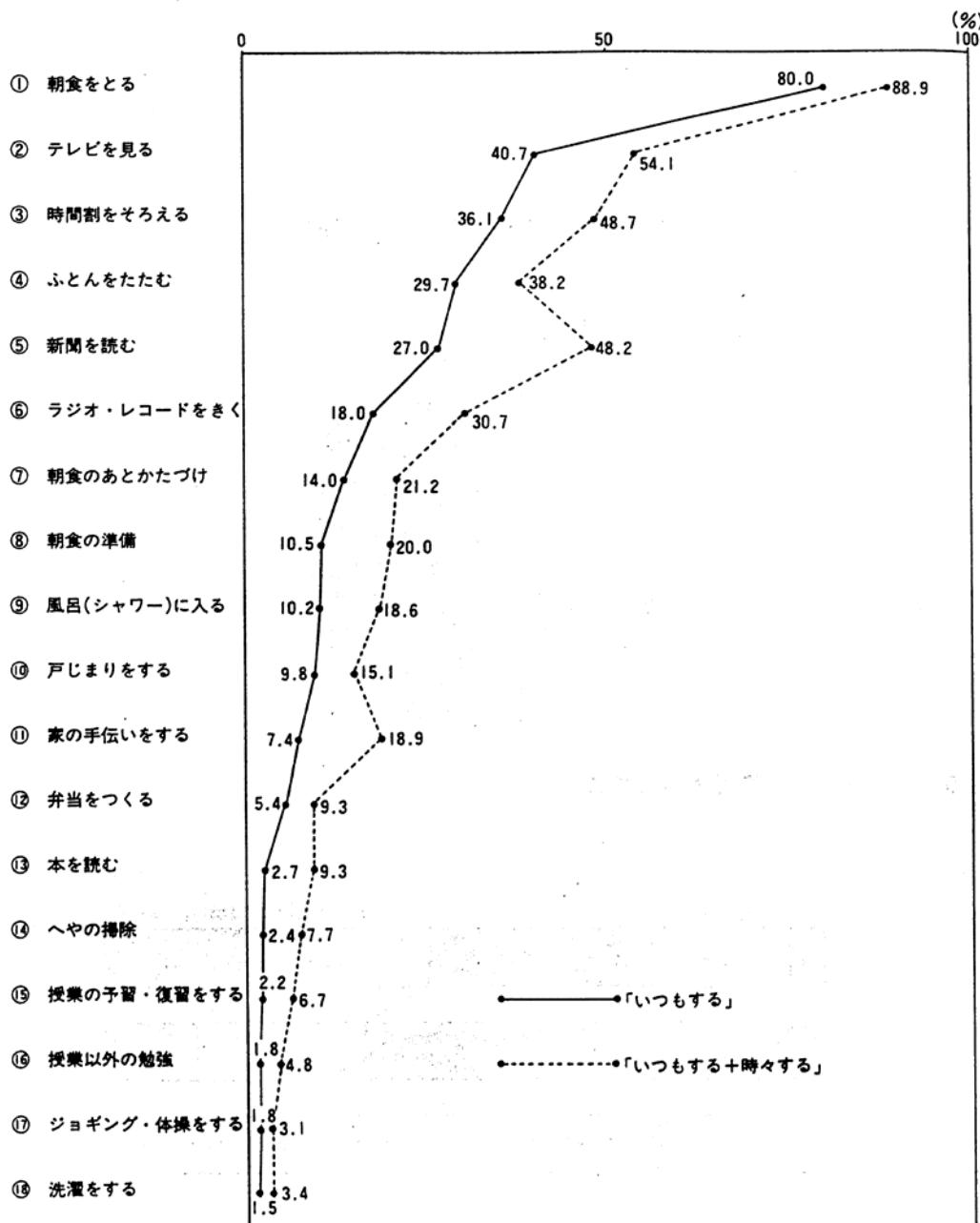
図5 朝起きてから登校するまでの時間
—30~45分—



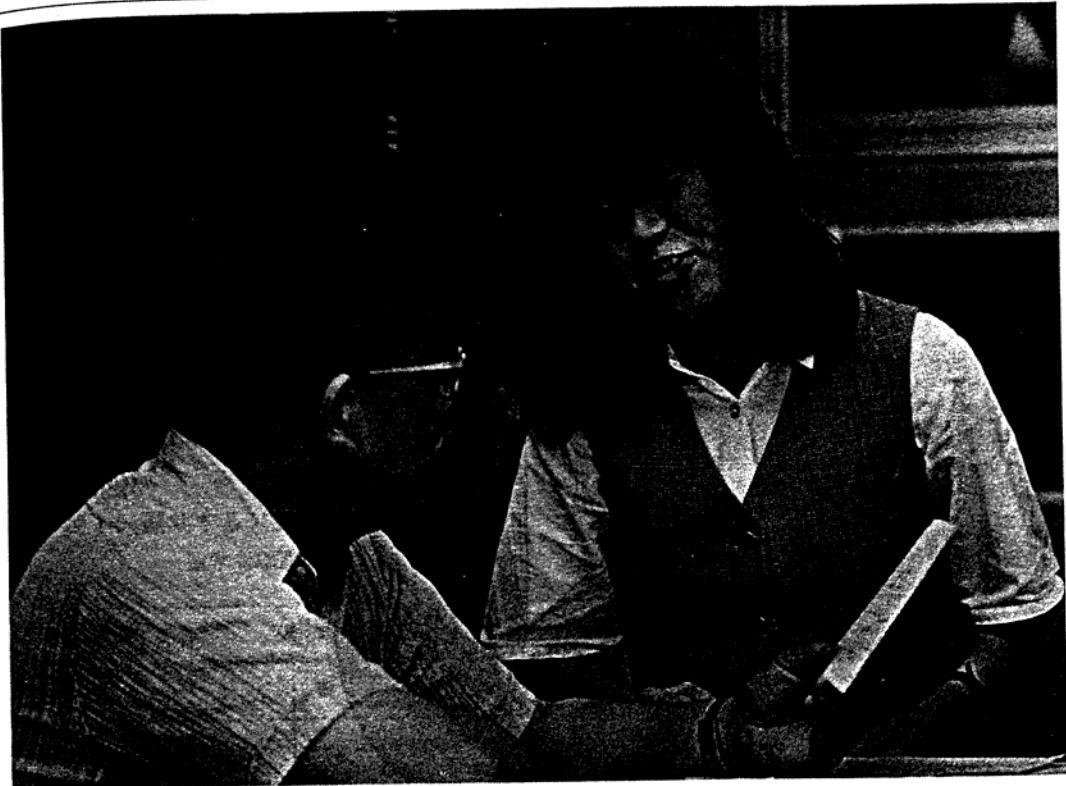
この中では、家業などで忙しい家庭の子どもが手伝っているのは理解できる。しかし、成績が上位で、むずかしい大学への進学を希望している生徒も、それなりに手伝っている。したがって、勉強が忙しいから手伝わないというのは言いわけにすぎないように思える。

家によって子どものしつけ方がことなり、ある家庭では子どもは食べっぱなし、他の家庭では手伝う。そうした家庭によるしつけの違いが上記の数値の中に感じられよう。しかし、いずれにせよ生徒たちは、時間に追われる感じで家をとび出し、学校へ向かう。

図6 朝起きてから登校までにすること
——食事とテレビ——



第II章 学校生活



1. 遅刻する生徒

図7のように、生徒はほぼ30分かけて登校している。そして、ほぼ3分の2の生徒が遅刻することなく（図9）、8時15分前後に学校に着くというのが登校の構図になる（図8）。

図9の中で、「週に1回」の4.4%を含めて、遅刻しがちな生徒は8.7%とほぼ1割に達する。朝のスタートから遅れたのでは学校生活がスムーズに進むまい。

〔よく十週に1回ぐらい〕遅刻をする割合(%)

(全体…8.7)

①性別	男子…… 9.6	女子…… 7.7
②学年別	1年…… 13.7	2年…… 5.5
③母親の仕事	専業主婦… 7.7	パート… 8.2
	フルタイム… 10.4	自営…… 9.5
④進路	就職…… 17.5	専門学校… 18.4
	短大…… 7.8	やさし大学… 8.3
⑤成績	むずかしい大学…… 4.2	
	上…… 9.1	中の上… 4.6
	中…… 6.9	中の下… 6.0
	下…… 14.8	

図7 家から学校までの時間

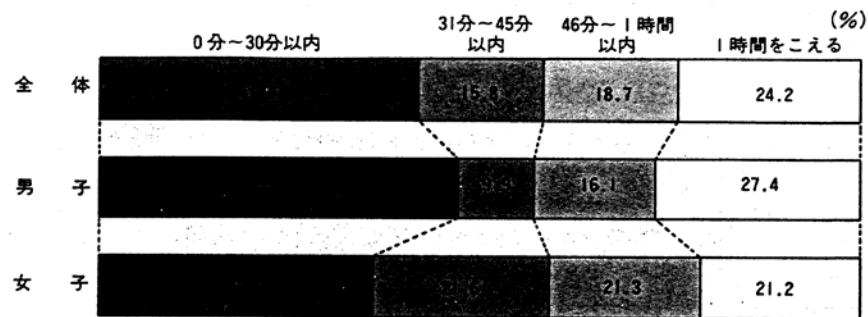


図8 あなたが学校に着くのは何時頃ですか

—8時15分前後—

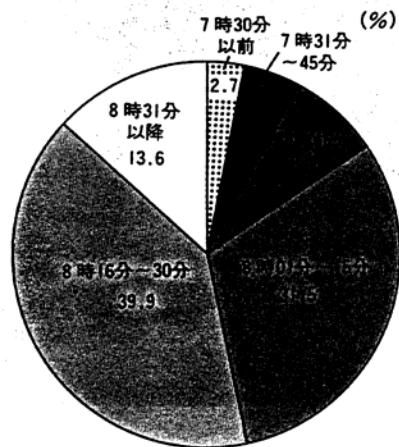
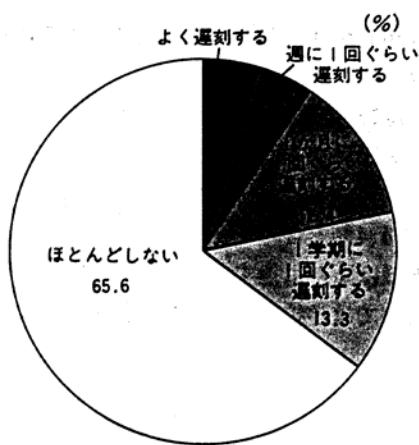


図9 あなたはよく遅刻をしますか



この中では、母親が就労しているかどうかで、遅刻率が影響を受けているのが目につく。もちろん高校生なのであるから、遅刻するかどうかは朝食の場合と同じように、本人の問題であり、親の責任などはないと思うが、ことの良し悪しはともかく、専業主婦のいる家庭の方が、子どもはしっかり登校してくるといえよう。しかし、考え方によれば母親がフルタイムで働いていても、専業主婦の家庭にいる子と、遅刻率は3%弱しか開いていない。したがって、高校生になると母親の影響力はそれほど大きくなないと解釈するのも可能であろう。

それと同時に、上述のデータの中で、進路

によって遅刻率がことなるのが気になる。そこで、進路と遅刻との関係をこまかく洗い出すと、表1のような結果となる。進学者は目的を持っているので、きちんとした時刻に登校してくるが、就職組などは、学校にそれほど意味を見いだせず、つい遅刻しがちになるのであろうか。

なお、登校してから始業までにしていることは表2のとおりで、「友とのおしゃべり」がしていることのほとんどすべてとなる。登校し、仲よしの子とおしゃべりをする。それが、生徒たちにとっての学校生活のスタートなのであろう。

表1 遅刻する×進路

——進学者は遅刻しない——

尺度 属性	遅刻する			少し遅刻する			ほとんど 遅刻 しない	(%)
	よく	週1回	小計	月に1回	1学期に1回	小計		
就職	10.8	6.7	17.5	14.2	10.8	25.0	57.5	5.8
専門学校	8.8	9.6	18.4	17.5	9.6	27.1	54.5	5.4
短大	4.3	3.5	7.8	11.8	14.1	25.9	66.3	12.1
やさしい大学	3.3	5.0	8.3	13.4	13.2	26.6	65.2	25.0
むずかしい大学	2.4	1.8	4.2	9.8	13.0	22.8	73.0	37.2
その他	4.6	6.9	11.5	12.9	16.2	29.1	59.4	14.5
	4.3	4.4	8.7	12.4	13.3	25.7	65.6	100.0

表2 始業までにすること
—友とのおしゃべり—

項目	よくする	時々する	一回にする	あまりしない	ほとんどしない	(%)
1. 友とのおしゃべり	(79.0)	11.0	3.9	2.7	3.4	
2. 学習など主要な活動	6.8	11.9	19.3	15.9	(46.1)	
3. 遊活動の練習	6.4	3.7	5.7	5.1	(79.1)	
4. 日記や週報	5.7	8.9	30.3	14.7	(40.4)	
5. 飲・食	5.1	4.5	10.3	11.7	(68.4)	
6. 学校の宿題	5.5	15.7	(36.7)	12.8	29.3	
7. 掃・除	2.0	1.1	1.4	3.4	(92.1)	
8. 術習・テスト	1.6	2.6	4.5	6.0	(85.3)	

(○) = 最頻値

2. 授業中の気持ち

授業中のことについては、本シリーズでもいろいろな角度から分析を試みているので、ここではごく簡単に、授業中についていることを紹介するにとどめよう。

表3によれば、ノートをとるほか、時にはほんやりしたり、となりの子とおしゃべりをしたりして、授業時間を過ごしているという。

もちろん、授業での気持ちは学業成績により大きく変わってこよう。そこで、授業中の態度と成績との関係を図化すると図10のとおりとなる。成績の上位層は、ノートをとり先生の話をよくきくなど、熱心に授業に参加している。それに対し成績下位層は、ほんやりしている時が多い。

成績の中位から下位にかけての生徒にとっ

て、多くの授業は関心を持てない苦行なのであろうか。しかも勉強が得意の生徒の割合は、以下のように「少し得意」を含めても4分の1にすぎない。

学業成績 (%)					
	数学	英語	国語	三教科平均	
得意	とても	7.0	7.2	5.4	6.5
	少し	19.2	20.2	19.4	19.6
ふつう		28.4	30.0	39.5	32.6
	少しだけ	20.0	21.3	18.6	20.0
不得意	かなり	25.4	21.3	17.1	21.3
	ひどい				

そして「少し不得意」を含めれば、不得意層は4割を超える。そうなると、学校へ行き、熱心に授業をきいているのは少数派で、苦行

を強いられている方がかなりの割合に達している計算になる。ここで、学校論をこと新しく展開するつもりはないが、こうしたデータを手がかりにすると、学校は生徒の成長に役立っているのかという疑問が生じてくる。

それでも、成績不振ぎみの生徒が数多くの友だちを持っているなら救いが見いだされるが、「友だちから好かれていると思うか」について、成績との間に以下のような傾向が得

られる。

	友だちから	とても わりと 好かれて いる	少し 好かれて いる	あまり せんぜん 好かれて いない	%
	上 位	26.9	41.4	21.7	
成績	中の上位	29.2	58.6	12.3	
	中 位	24.9	56.1	18.9	
	中の下位	23.6	60.8	15.6	
	下 位	22.4	47.8	29.8	

表3 授業中の態度

— 時々、いねむりや内職 —

(%)

尺度 項目	とても そうである	かなり そうである	少し そうである	あまり そうでない	せんぜん そうでない
1. タートをしっかりとる	36.9	(37.3)	16.0	7.2	2.6
2. となりの人とおしゃべりする	13.8	17.3	(32.9)	25.9	10.1
3. 他のことを考えている	13.4	22.1	(42.1)	17.6	4.8
4. ポーツとしている	11.0	17.1	(33.0)	26.5	12.4
5. 先生の話をよくさう	10.3	29.3	(40.5)	16.7	3.2
6. いねむりをする	8.6	14.7	(38.9)	23.1	14.7
7. 内職をする	5.1	9.8	(32.3)	28.0	24.8
8. 他のことを考える	2.5	3.4	14.6	27.4	(52.1)
9. おしゃべりをする	2.2	2.5	13.8	38.0	(43.5)
10. おしゃべり	0.6	0.3	2.2	4.2	(92.7)

(○) = 最頻値

この結果はシャープとはいいがたいが、それでも成績上位層はともあれ、比較的成績の上位の方が友から信頼されていると思えるのはたしかであろう。

なお、表4に進路別の授業中の態度を集計

した結果を示した。大学進学を考えている生徒は、ほんやりしたりすることなく、ノートをとっている。しかし、非進学者は友だちとおしゃべりをしたり、いねむりをしたり、ほんやりとしていることが多いように見える。

図10 授業中の態度×成績

——上位群は熱心に、下位層はほんやり——

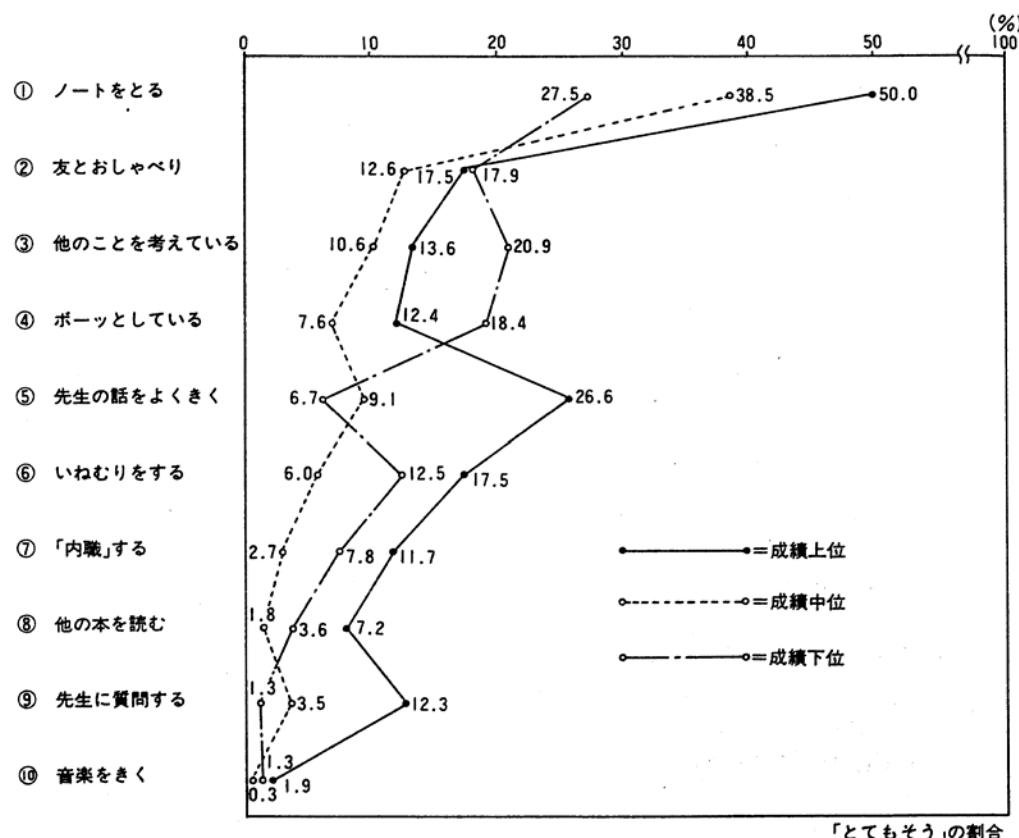


表4 授業中にしていること×進路

—就職組はいねむり、内職—

(%)

項目	ノートを取る	本を読む	他のことを考えている	ポーッとしている	先生の話を聞く	いねむり	内職する	他の本を読む	先生に質問する	音楽を聞く
就職組	35.5	18.2	15.7	12.4	6.7	(14.9)	(10.7)	(6.6)	2.5	2.5
内職組	30.7	(20.2)	(19.3)	(14.0)	5.3	7.9	4.4	2.6	0.0	0.9
日本大	37.6	18.0	14.9	12.2	3.5	6.7	6.7	1.2	0.0	0.8
東京大	32.9	10.7	12.4	9.5	7.6	8.4	3.4	1.7	2.1	0.4
むずかしい大	(42.7)	10.6	10.4	9.1	(17.1)	8.1	4.0	2.4	(3.3)	0.3
その他の	35.1	17.5	16.5	13.2	7.9	9.6	6.0	2.3	1.3	1.0
全 体	36.9	13.8	13.4	11.0	10.3	8.6	5.1	2.5	2.2	0.6

「とてもそう」の割合

(○)=最頻値
~~~~=最小値

### 3. 放課後の時間

こうみると、授業中の生徒は、必ずしも充足感を持って過ごしているのでないのがわかる。それでも、授業は終わり、放課後となる。図11のように、半数近くの46%は学校に残っているが、26%と4分の1の生徒は、ほとんど毎日すぐに帰宅している。そして、図12から明らかなどおり、学校に残っている生徒は2時間以上在校しているものが少なくない。

もちろん、学校に残っている生徒は部活動に打ちこんでいるのであろう。表5が示すように放課後は、掃除をしたり、友だちとしゃ

べったりする以外は、部活動へ参加している生徒だけが学校に残っている。

本サンプルの場合、部活動へ参加している割合は

$$\text{部活動へ} \left\{ \begin{array}{l} \text{参 加} \cdots 68.3\% \\ \text{不参加} \cdots 31.7\% \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} \text{文化部} \cdots 31.1\% \\ \text{運動部} \cdots 35.4\% \\ \text{その他} \cdots 1.8\% \end{array} \right.$$

と、運動部、文化部、不参加に、ほぼ三分かれている。そこで将来の進路との関係で、部活動への所属を分析すると、図13のような傾向が得られる。

調査実施時期が2学期末になってしまったので、本調査では、高3を対象からはずしているが、それでも図13によると、進学組が部活動、中でも運動部を敬遠しがちな傾向が得られている。

たしかに部活動の長さは、2時間半～3時間17%、3時間以上10%など、2時間を超えているものが52%と半数を超えているし、休日

の部活動も25%の部では「ほぼ毎回」行うという。

したがって、先ほどのタイプ分けをもう少しこまかく考察すると、生徒たちは、部活動へ参加しない者、毎日2時間そして休日も練習する運動部、そして、そこそこに活動をする文化部とに、三分されている印象を受ける。

なお、放課後予備校などへ通っている者の

図11 放課後すぐに帰宅するか  
——帰宅しない者は半数——

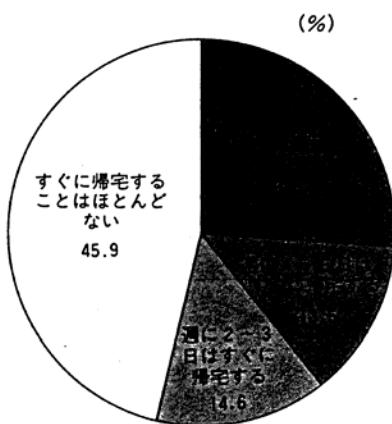


図12 放課後、学校にいる時間  
——2時間以上の生徒もいる——

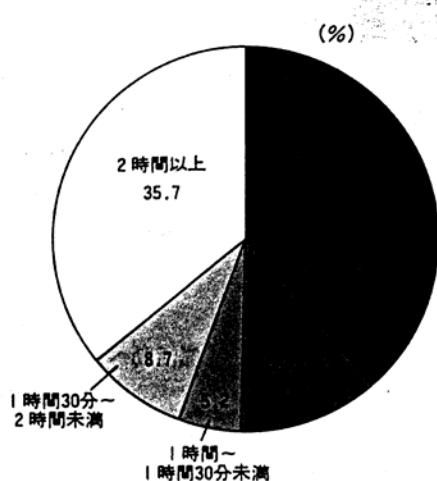


表5 放課後していること

——部活動の他は掃除と雑談を少し——

(%)

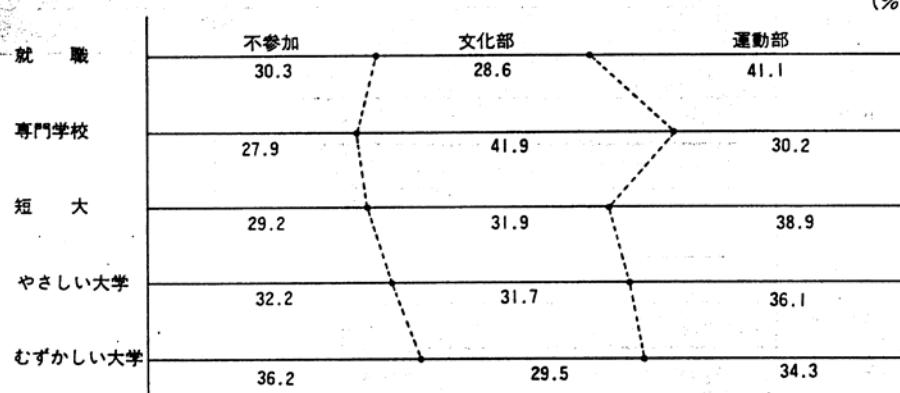
| 部活動          | とてもよくある | かなりよくある | どちらともいえない | あまりない | まったくない |
|--------------|---------|---------|-----------|-------|--------|
| ① 部活動        | (44.2)  | 6.9     | 7.5       | 4.1   | 37.3   |
| ② 文化部        | 16.4    | 10.7    | (42.5)    | 13.7  | 16.7   |
| ③ 文化祭などおもしり  | 9.8     | 11.7    | (28.3)    | 23.4  | 26.8   |
| ④ 学級活動・委員会活動 | 1.9     | 1.9     | 10.1      | 15.8  | (70.3) |
| ⑤ 練習を受ける     | 1.3     | 2.2     | 11.6      | 18.3  | (66.6) |
| ⑥ 図書室などで勉強   | 1.1     | 1.6     | 6.6       | 16.3  | (74.4) |
| ⑦ 先生と話す      | 0.9     | 1.5     | 6.5       | 23.7  | (67.4) |

○ = 最頻値

図13 部活動×進路

——進学組は部活動を敬遠ぎみ——

(%)



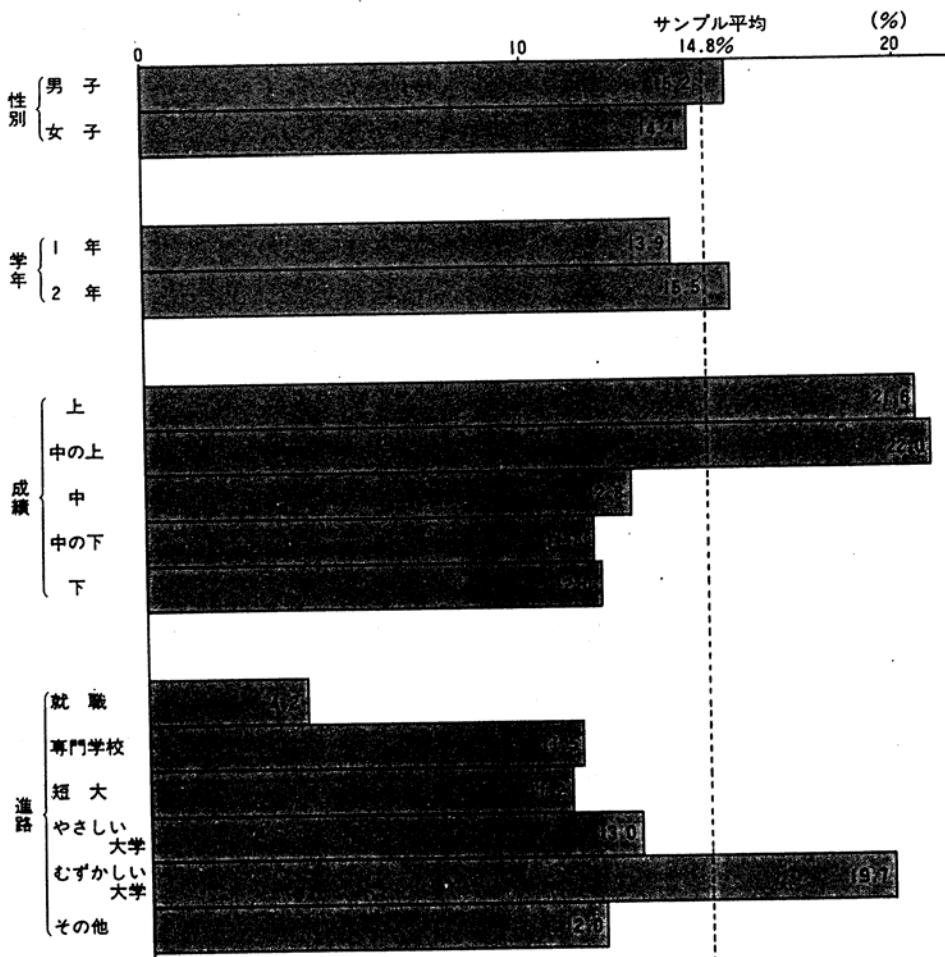
割合は以下のとおりである。

| 学校外の勉強              |  |
|---------------------|--|
| ①予備校 (14.8%)        |  |
| 位置………家から30分 (44.7%) |  |
| 勉強時間…1～2時間 (56.5%)  |  |
| ②家庭教師 (4.4%)        |  |
| 勉強時間…2～3時間 (47.3%)  |  |
| ③けいこごと (16.0%)      |  |
| けいこ時間…1～2時間 (49.3%) |  |

予備校というと、浪人のいくところと相場が決まっていた。しかし、このところ現役生の中で、予備校通いをしている者が多いと聞く。本サンプルでも、予備校通いを中心とした通塾生は15%に達した。

そして、属性分析の結果を図14に示したが、さすがに現役のうちから予備校へ通っているのは、成績が上位の大学進学志望者に多い。成績が上位で、むずかしい大学への進学を考えている生徒は、学校の勉強だけでは望みがかなえられそうもないと思っている。それだけに、学校の授業にある程度の見切りをつけ

図14 予備校通い×属性  
——成績上位の大学進学組——



て、予備校通いを始めるのであろう。

なお、放課後していることをトータルにつかむと、表6のような感じになる。ちょっとした買い物をする以外は、ほとんど何もすることなしに、まっすぐに帰宅している場合が多い。遅くまでおしゃべりをしていたり、喫

茶店によることもめったにないという。部活動の帰りに、スタンドでスナックを食べたり、飲んだりはするのであろうが、予想していたより、高校生の生活がはるかにシンプルで、考え方によっては健全なという印象を抱いた。

表6 学校帰りにすること  
—たまに買い物をするくらい—

|          | 小売店 | 駅そば  | 駅バーカフェ | 駅前     | (%)    |
|----------|-----|------|--------|--------|--------|
| ① 大量買付   | 9.7 | 18.1 | (32.9) | 18.8   | 20.5   |
| ② 不定期買付  | 6.3 | 13.0 | (29.0) | 23.1   | 28.6   |
| ③ 定期買付   | 5.4 | 8.8  | 20.8   | (37.5) | 27.5   |
| ④ 喫茶店    | 4.3 | 8.8  | 17.0   | 26.1   | (43.8) |
| ⑤ 駅そば    | 3.6 | 3.3  | 3.4    | 3.9    | (85.8) |
| ⑥ フードコート | 3.4 | 5.4  | 17.2   | 30.3   | (43.7) |
| ⑦ 外で食事   | 2.5 | 5.9  | 13.6   | 24.6   | (53.4) |
| ⑧ おしゃべり  | 2.1 | 2.3  | 2.1    | 3.6    | (89.9) |

○=最頻値

## 第III章 帰宅してから



### 1. だんらんとしての夕食

学校へ行き、授業をきき、部活動へ参加したり、生徒によっては予備校へ通ったりして帰宅する。帰宅時刻は、部活動への参加などによりことなるが、以下のように分散している。

| 帰宅時間 |       |
|------|-------|
| 3時台  | 11.3% |
| 4時台  | 45.5% |
| 5時台  | 31.8% |
| 6時台  | 11.4% |

平均値 午後4時46分

仮に平均値を試算すると、朝、家を出たのが7時40分なので、ほぼ9時間外へ出ていた計算になる。生徒にとっては学校での生活が決定的に長いが、それにしては学校での居心

地が必ずしも良くない。彼らは苦行を終え、ほっと一息つく感じで帰宅するのであろう。

帰宅してからの楽しみは、なんといっても夕食であろう。

| 夕食の時間 |       |
|-------|-------|
| 6時前   | 11.3% |
| 6時台   | 45.5% |
| 7時台   | 31.8% |
| 8時台   | 11.4% |

図15のように、さすがに夕食となると家族全員がそろうことが多く、父だけ不在を含めると、6割強の子どもは家族だんらんの時を過ごしている。そして、食事時間も30分かけて夕食をとる(図16)。

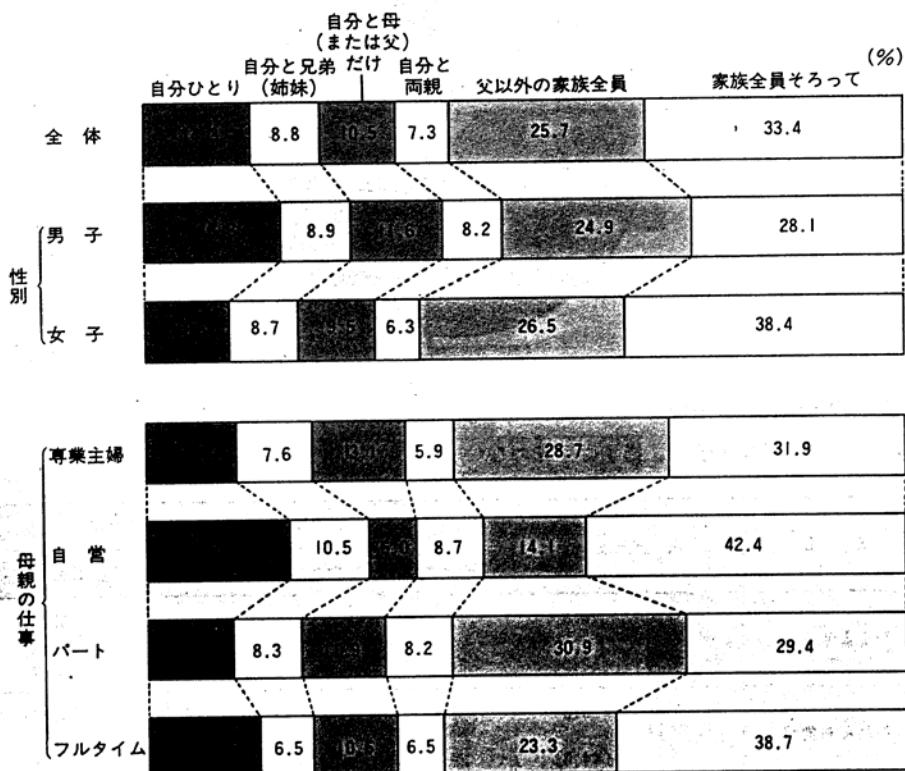
考えてみると、朝起きてからあたふたと学

校へ行き、そして、一日を過ごす。こうした事情は父親や母親についてもいえるのであるから、なにかと気ぜわしい現代社会では、夕食は一日の中で家族がくつろげるたった一回の機会なのかもしれない。そう思うと、夕食をもっと大事にしなければという気持ちがつのる。

| 夕食時にテレビがついているか (%) |      |
|--------------------|------|
| 必ず                 | 40.5 |
| ついている              | 28.3 |
| 多い                 | 68.8 |
| ついていたり、きえていたり      | 10.9 |
| 多い                 | 4.8  |
| ついていない             | 20.3 |
| ぜんぜん               | 5.0  |
| 食卓からはテレビが見えない      | 10.5 |

図15 だれと食べるか

—父がないことも—



夕食が終わると、かたづけが始まる。これまで、朝起きてから夕食まで、その子が男か女かはあまり問題でなかった。しかし、家の手伝いでは、男女がはっきりしてきて、手伝うのは女の子、手伝わないのは男の子という感じになる（表7）。

手伝わない子どもがふえたといわれるが、さすがに高校生の女子の場合、半数前後の子

はご飯をよそったり、お茶わんを並べたりしている。こうしたなにげないしつけが失われているだけに、ほほえましい傾向だが、男子はほとんどといっていいほどに手伝っていない。

これから世の中なのであるから、男の子たちもそれなりに家事を手伝ってもよいのではないか。なお、あとかたづけをしている割

図16 夕食にかける時間

—30分ぐらい—

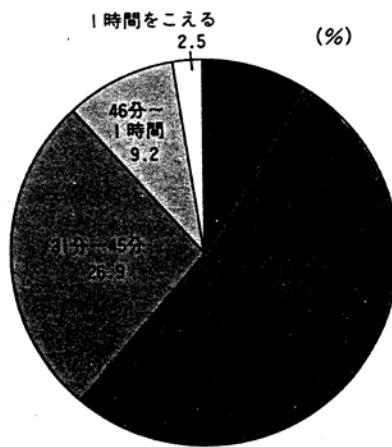


表7 夕食時の手伝い

—女子は手伝う、男子は手伝わない—

|      |      |      |      | (%)  |
|------|------|------|------|------|
| 10.8 | 11.0 | 18.7 | 14.3 | 45.2 |
| 50.3 | 24.5 | 13.2 | 6.1  | 5.9  |
| 9.3  | 10.0 | 19.9 | 13.1 | 47.7 |
| 44.5 | 22.5 | 17.3 | 6.9  | 8.8  |
| 12.8 | 10.3 | 14.6 | 17.0 | 45.3 |
| 34.0 | 23.3 | 19.3 | 14.1 | 9.3  |
| 2.7  | 4.3  | 10.8 | 14.1 | 68.1 |
| 12.4 | 18.6 | 30.0 | 20.3 | 18.7 |
| 2.7  | 4.0  | 15.1 | 15.1 | 63.1 |
| 8.6  | 12.8 | 23.8 | 21.2 | 33.6 |

○ = 最頻値

合を属性別に集計した結果が図17である。  
なお図18は、夕食とともに家庭での憩いのときにある入浴の割合を示している。

|        | 男子   | 女子   | (%) |
|--------|------|------|-----|
| 入浴時間   |      |      |     |
| 15分以内  | 11.7 | 0.7  |     |
| 16~30分 | 59.4 | 42.9 |     |
| 31~45分 | 21.9 | 36.7 |     |
| 46分以上  | 7.0  | 19.7 |     |

男の子たちは長くとも30分以内で入浴するが、さすがに女の子の入浴は時間がかかる。45分以上入っている子も2割に達する。筆者

などからすると、小1時間もどうやって入浴しているのかと思うが、それは10代の微妙な心の動きを忘れた者のいい方なのかもしれない。

図19は夜食をとっているかどうかだが、ほとんど知らない者が6割を占める。2年生でまだ受験競争の本番になっていないので、夜食をとっていないが、いずれ3年生の受験シーズンが深まるにつれて、夜食をとる割合も増加するのであろう。

図17 あとかたづけ×属性  
——フルタイムの母を持つとよく手伝う——

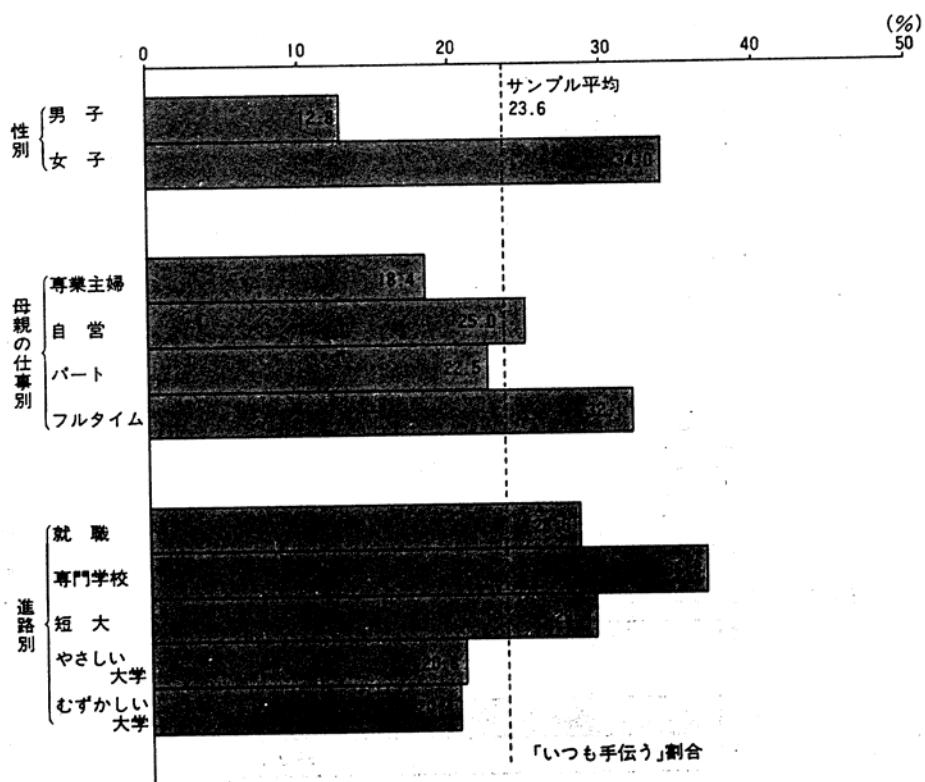


図18 入浴

——毎日入るが8割——

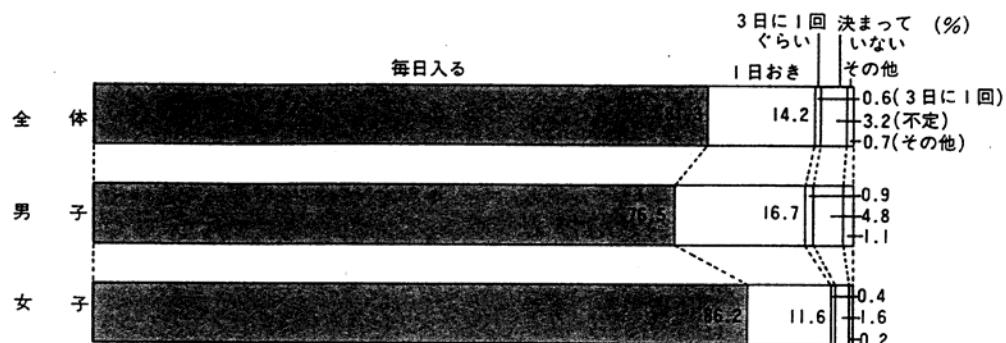
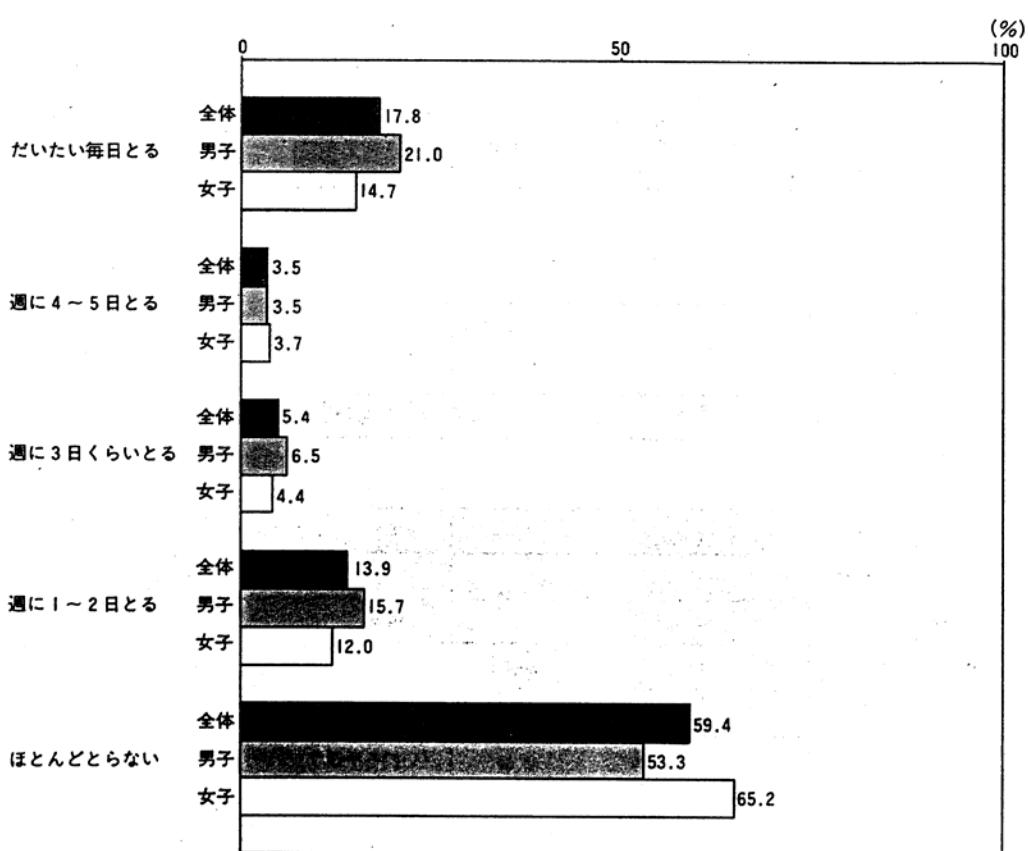


図19 夜食をとるか

——ほとんどとらない——



## 2. 家庭学習

夕食や入浴はくつろぎの時間であろうが、高校生は、当然勉強しなければならない。家庭学習の長さは図20に示したとおりで、平均すると、ほぼ1時間が勉強の長さになる。

しかし、勉強時間は属性によりことなり、高1から高2へ、1年上がるだけでも、2時間以上勉強している者の割合が、高1の12%から高2の37%と、ほぼ3倍に増加している。それと同時に、成績が上位になるほど、そして大学志望の者ほど、家庭学習に多くの時間を費やしている。

もちろん勉強の得意な生徒は、勉強がわかるので、熱心に集中できると思うが、勉強が苦手な生徒は内容がわからず、関心を持ちにくいので机の前になかなかすわれないのである。

したがって家庭学習の長さは、本人がどんな気持ちでいるかによってことなり、一般化はむずかしいが、実際にどんな勉強をしているのかを領域別にまとめると、以下のとおりとなる。

| 家庭学習の内容   | 30分以内 | 31分～1時間 | 1時間以上 | (%) |
|-----------|-------|---------|-------|-----|
| ①学校の宿題    | 53.7  | 38.4    | 7.9   |     |
| ②学校の予習    | 61.4  | 23.6    | 15.0  |     |
| ③受験の勉強    | 72.8  | 14.2    | 13.0  |     |
| ④学校の復習    | 75.1  | 18.8    | 6.1   |     |
| ⑤予備校・塾の勉強 | 82.0  | 7.5     | 10.5  |     |

大多数の生徒たちは、学校での宿題を中心に勉強し、高1～高2の段階で、長い時間受験勉強をしている生徒は少数例にとどまるようと思える。

そこで、進路別に、どんな勉強をより多くしているかどうかたしかめてみた。図21のように、学校の宿題は進路に関係なく、ある程度の割合で取り組んでいるが、受験勉強をしている生徒は、当然のことながら4年制大学、中でもむずかしい大学への進学を望んでいる

者に限られている。

なお、勉強というと「ながら勉強」が頭にうかんでくる。とくにラジカセに耳を傾けながら、勉強をしている生徒が少なくないといわれる。そこで、ながら勉強の割合を示すと、以下のとおりとなる。

| ながら勉強      | よくしている | たまに    | ほとんどしない | (%) |
|------------|--------|--------|---------|-----|
| ①家族と話しながら  | 4.4    | 30.3   | (65.3)  |     |
| ②テレビを見ながら  | 9.2    | 39.0   | (51.8)  |     |
| ③飲食しながら    | 18.4   | (56.5) | 25.1    |     |
| ④ラジオをききながら | 20.3   | (45.1) | 34.6    |     |
| ⑤音楽をききながら  | 35.7   | (44.1) | 20.2    |     |

テレビを見ながら勉強することはめったにないが、飲食しながら勉強することは多い。そして、音楽に耳を傾けながらの勉強は、現代の若者らしく「よくしている」者は36%と3分の1を超える。

もっとも表8に一端を示したように、ながら勉強をしているかどうかを進路別に分析すると、さすがにむずかしい大学への進学を考えている者は、ながら勉強をする割合が少ない。それに反し、専門学校や短大へ進むつもりの者のながら勉強をする率は高い。

もっとも当然といえばそれまでだが、成績上位の生徒はむずかしい大学への進学を希望し、成績が下位になるにつれて、就職や短大志望者がふえる(表9)。したがって、大づかみにすると、将来の進路は成績に裏打ちされていると考えられよう。

こうみると、家庭学習は、本人が自分の進路をどう考えるかによって、すでに高1の頃から、受験を意識して長い時間勉強をしている者から、宿題などを音楽をききながら取り組んでいる者まで、具体的な勉強のしかたはかなりの開きを示している。

図20 家庭学習の長さ

—進学者は勉強をしている—

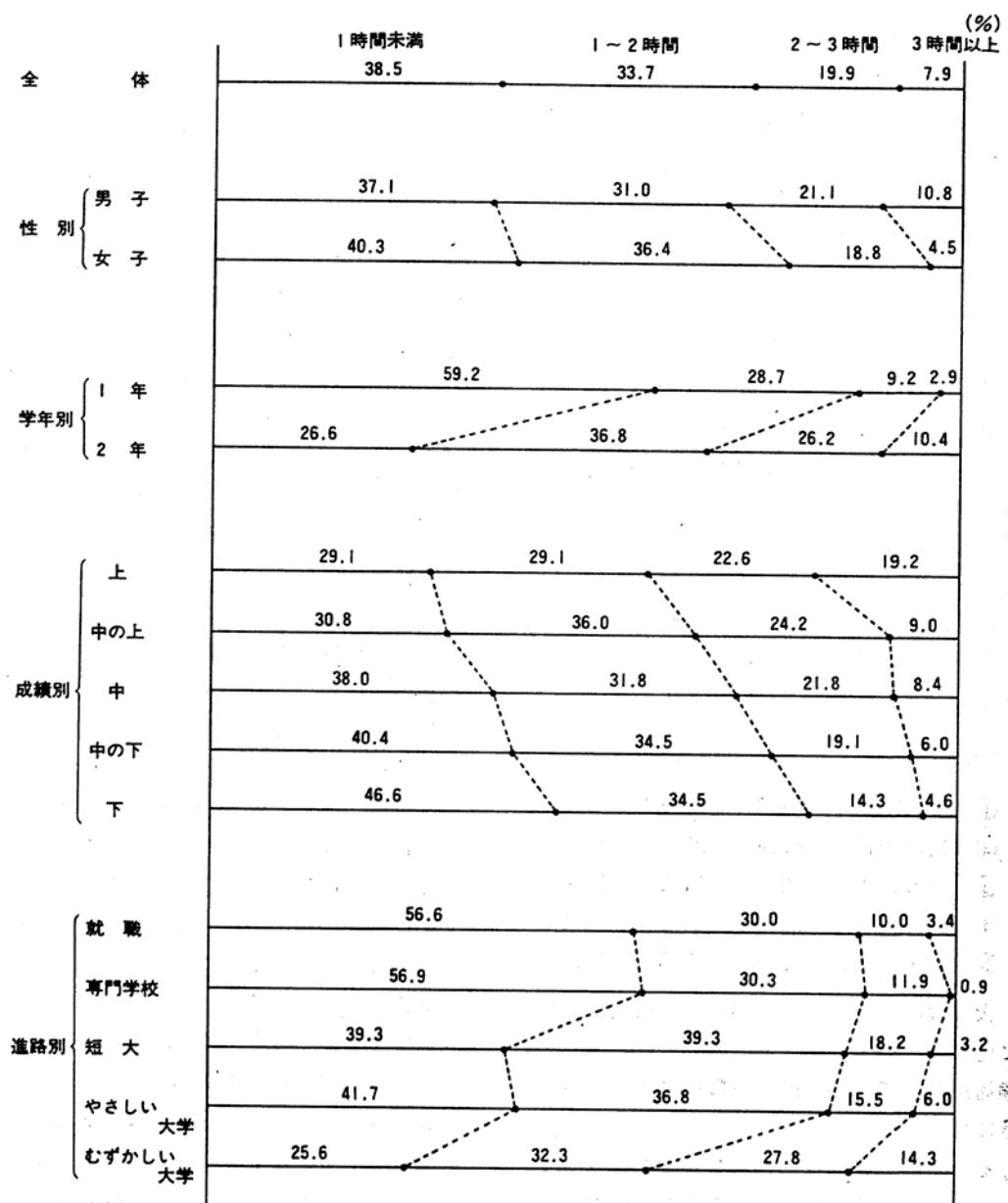


図21 勉強の領域×進路

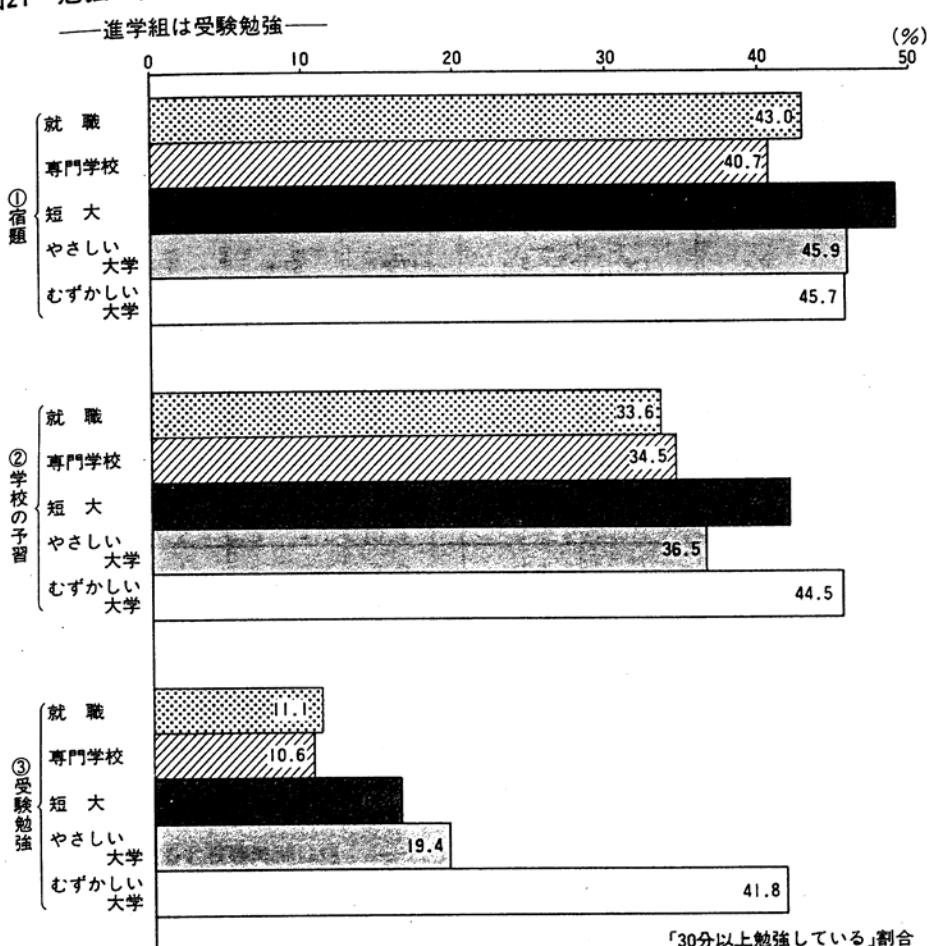


表8 ながら勉強をしているか×進路

—がんばる生徒はながら勉強をしない—

| 進路      | 「よくある」割合 (%) |        |        |        |        |
|---------|--------------|--------|--------|--------|--------|
|         | 7.5          | 14.2   | 21.7   | 21.4   | 42.9   |
| 就職      | 4.5          | (15.2) | (23.2) | 21.4   | (46.9) |
| 専門学校    | (8.8)        | 11.5   | 22.7   | 17.5   | 31.7   |
| 短大      | 2.7          | 8.1    | 17.6   | (23.1) | 37.7   |
| やさしい大学  | 2.7          | 5.8    | 13.8   | 18.0   | 30.7   |
| むずかしい大学 | 7.5          | 13.6   | 23.2   | 21.8   | 39.7   |
| 大学院     | 4.4          | 9.2    | 18.4   | 20.3   | 35.7   |

「よくある」割合

(○)=最頻値

(~~)=最小値

表9 成績×進路

| 成績<br>進路 | 就職  | 専門学校 | 短大   | やさしい大学 | むずかしい大学 | その他  | (%)   |
|----------|-----|------|------|--------|---------|------|-------|
| 上        | 2.1 | 1.4  | 4.1  | 17.2   | 67.6    | 7.6  | 6.9   |
| 中の上      | 4.2 | 3.5  | 9.2  | 21.1   | 53.3    | 8.7  | 19.2  |
| 中        | 4.7 | 4.7  | 12.7 | 27.3   | 34.7    | 15.8 | 28.2  |
| 中の下      | 5.5 | 7.6  | 12.9 | 28.3   | 31.0    | 14.8 | 20.1  |
| 下        | 9.3 | 7.1  | 14.9 | 25.0   | 24.6    | 19.0 | 25.6  |
|          | 5.8 | 5.4  | 12.1 | 25.0   | 37.2    | 14.5 | 100.0 |

### 3. 家庭での余暇

家庭での余暇といえば、とりあえずテレビ視聴であろう。表10のように、生徒たちは平均して1時間半程度、テレビを視聴している。しかし、学年が上がるにつれて視聴が短くなる。また、進学志望者の視聴時間も短い。

テレビは、いわば余暇の時間なので、勉強などのしなければならないことがふえると、視聴時間が短くなるのであろう。

そして、よく見るテレビをジャンル別に尋ねると、図22のように、まず歌番組、そして、映画、ニュースとなる。しかしこれは、あくまで全体としての反応であって、将来の進路別によく見るテレビを集計しなおすと、図23のような結果が得られる。

よく見る  
ジャンル  
進路別 { むずかしい大学志望…ニュース  
短大志望……………ドラマ  
就職するつもり………歌  
(図23)

もちろん、テレビを見ながら、その日にあったことを語り合うのであろうが、そうした割合は、図24に示したとおりである。よく話すという学校や友人のことでも、話す割合は2割強にとどまり、「時々」を含めても、話す割合は5割を下まわる。とくに異性のこととは、親に話さない方が一般的ですらある。

高校生の間に、古典的な意味での第二次反抗期が認められるかどうかは疑問だが、それ

にしても、中学から高校にかけては、親子の間に心理的な距離が生じる。もちろん、それは親子関係の発達からみて、健全な姿なのであろうから、図23の結果も、この程度の話し合いで十分と考えられよう。

表9 家の人と話す割合 (%)

|          | 1年   | 2年    | 男子   | 女子    |
|----------|------|-------|------|-------|
| 学校のこと    | 27.9 | >23.8 | 16.0 | <34.3 |
| 友人のこと    | 26.6 | >19.1 | 11.4 | <32.0 |
| 進路のこと    | 15.3 | <19.8 | 16.0 | <20.0 |
| 勉強のこと    | 12.3 | <14.6 | 12.6 | <14.8 |
| ニュース     | 10.4 | <13.3 | 11.4 | <13.1 |
| 近所のこと    | 11.3 | > 8.5 | 5.6  | <13.5 |
| 芸能ゴシップ   | 8.2  | > 6.9 | 4.3  | <10.4 |
| 悩み       | 6.0  | > 4.9 | 2.5  | < 7.9 |
| 異性のこと    | 4.6  | > 4.0 | 2.3  | < 5.9 |
| 「よく話す割合」 |      |       |      |       |

このように、女の子たちは母親相手であろうが、男の子よりいろいろなことを話すことが多いし、学年別では、進路などを除くと、高1の方が話している割合が高い。

高2になるとつれて、自分なりの世界ができる、なんでも親に話すことはなくなる。それは、子どもたちの心の成長を意味するものであろう。

帰宅してからしていることは、前述したような家庭学習とテレビ、そして雑談につきるのであろうが、その他にしていることを尋ねると、図25のとおりで音楽を聞くが目につく。

部屋へ入って、マンガ雑誌かファッション関係の専門誌のページをめくりながら、ラジカセを通して好みの音楽に耳を傾けているのであろう。

なお、こうした生活に属性による開きが認められるかどうかをたしかめたのが、表11である。その中でも、とくに将来の進路に着目

表10 テレビ視聴の長さ

—高2になると視聴時間は短く—

(%)

| 性別 | 短い時間   |       |       | 長い時間   |       |       | 長い時間   |       |             |
|----|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------------|
|    | 1日1回未満 |       |       | 1日1回以上 |       |       | 1日2回以上 |       |             |
|    | 1回     | 30分以内 | 30分以上 | 1回     | 30分以内 | 30分以上 | 1回     | 30分以内 | 30分以上       |
| 男  | 3.8    | 5.3   | 9.1   | 16.1   | 36.1  | 52.2  | 21.6   | 17.1  | (38.7)<br>V |
|    | 6.9    | 9.3   | 16.2  | 26.6   | 36.4  | 63.0  | 12.9   | 7.9   | 20.8        |
|    | 6.1    | 7.9   | 14.0  | 25.3   | 35.8  | 61.1  | 13.6   | 11.3  | 24.9        |
|    | 5.3    | 7.6   | 12.9  | 20.1   | 36.9  | 57.0  | 18.9   | 11.2  | 30.1        |
|    | 6.7    | 3.3   | 10.0  | 15.0   | 30.8  | 45.8  | 22.5   | 21.7  | (44.2)<br>V |
|    | 7.1    | 6.2   | 13.3  | 12.4   | 38.0  | 50.4  | 22.1   | 14.2  | 36.3<br>V   |
|    | 2.4    | 3.6   | 6.0   | 18.7   | 40.0  | 58.7  | 23.0   | 12.3  | 35.3<br>V   |
|    | 4.3    | 8.0   | 12.3  | 22.5   | 40.9  | 63.4  | 14.0   | 10.3  | 24.3<br>V   |
|    | 7.7    | 10.6  | 18.3  | 27.5   | 33.3  | 60.8  | 12.5   | 8.4   | 20.9        |
|    | 5.7    | 7.8   | 13.5  | 22.5   | 36.5  | 59.0  | 16.2   | 11.3  | 27.5        |

図22 好きなテレビ番組  
——歌番組を中心に——

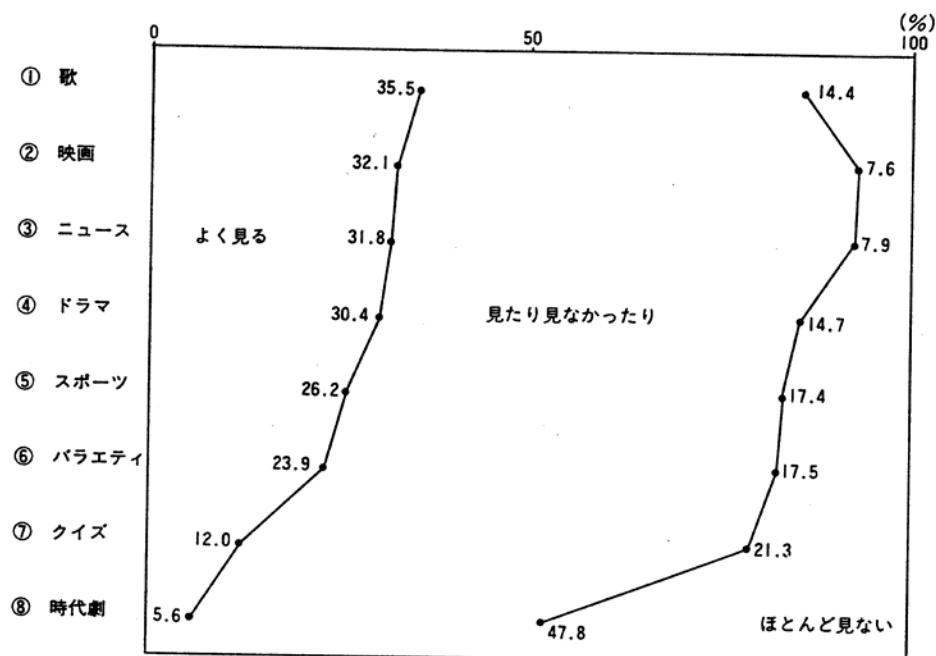


図23 よく見るテレビ×進路  
——進学者はニュース、非進学者は歌——

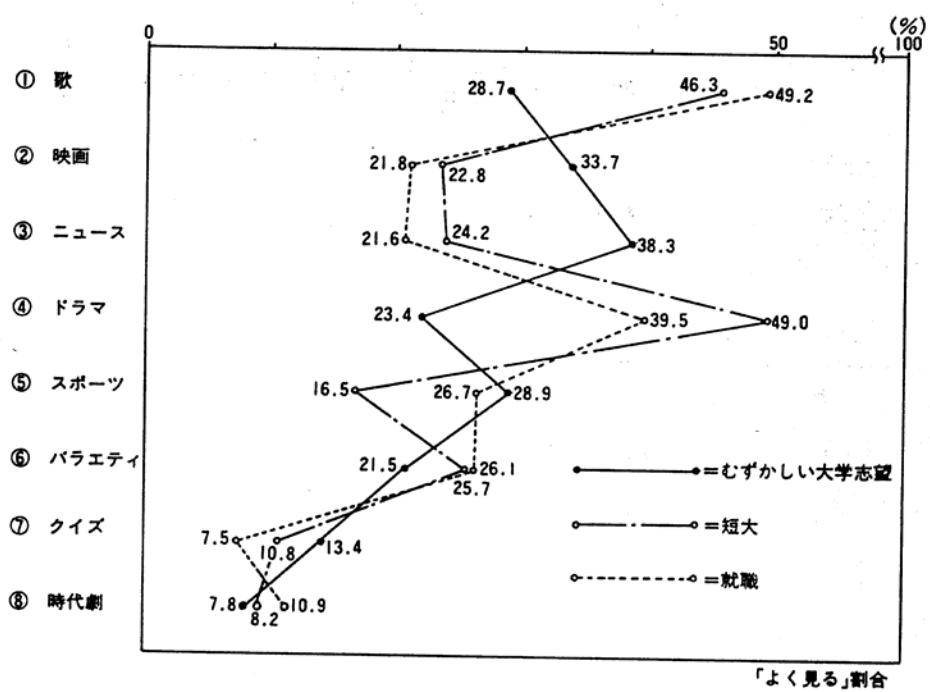


図24 家の人と話すこと  
——学校のことを話す——

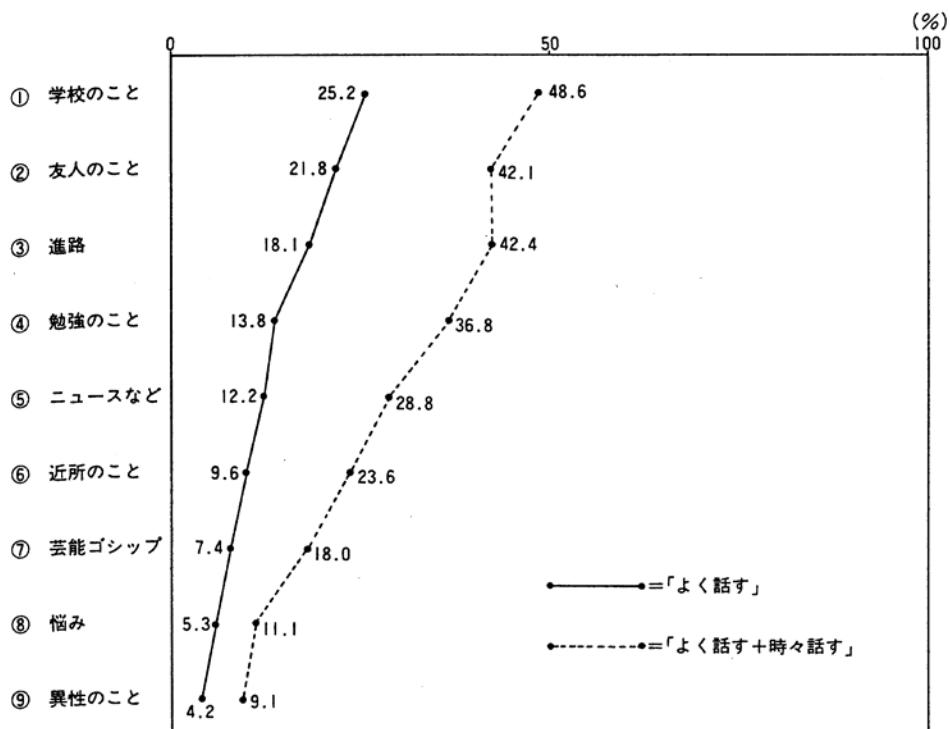
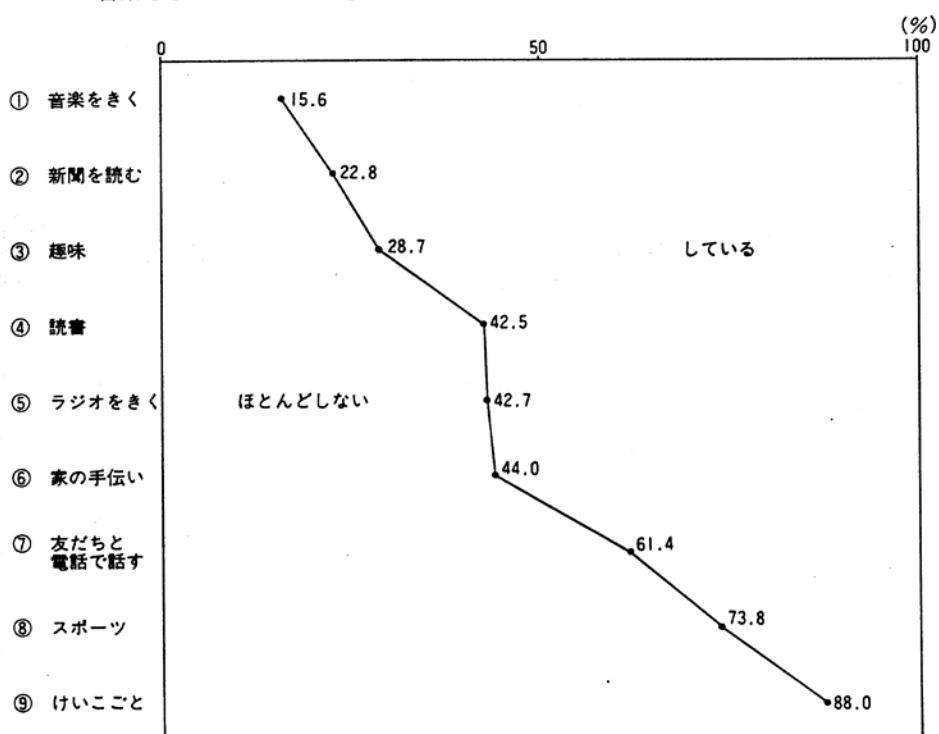


図25 帰宅してからしていること  
——音楽をきいていることが多い——



して作表してある。

|            |                  |
|------------|------------------|
| してい<br>ること | 就職組……音楽をきく       |
|            | 専門学校…家の手伝い・電話で話す |
|            | 趣味               |
|            | 短大……けいこごと        |
|            | やさしい大学…ラジオ       |

むずかしい大学…新聞・読書・スポーツ

なんとなくわかったような気になる結果だが、大学入学志望者が、読書、スポーツ、新聞と質的に高い余暇の過ごし方を送っている感じがする。それに対し、就職組では音楽をきくに、多くの時間を費やしものを作り出すというより休息型の余暇という印象を拭いえない。短大志望者にけいこごとが多いのは、女性の割合が多いからであろう。

なお、生徒たちの睡眠についてのデータは表12に示したとおりである。これまでの結果から予想されるように、将来むずかしい大学への進学を志している生徒のうち、ほぼ3割は、受験勉強を始めているので、睡眠時間が

短くなり始めている。

しかし、平均するとほぼ6～7時間睡眠をとり（図26）、そして休日の前夜は、ふだんよりちょっと遅くまで起きたりしながら（図27）、生徒たちの一日が終わる。

平和な一日という感じはするが、こうした生活に充足感を抱けるかどうかは、学校での時間がどの程度充ちたりているかによろう。学校が機能していれば、家庭が憩いの場となり、高校生の一日としてはおおむね妥当なものであろうが、学校の比重が大きいだけに、学校生活の中で充足感を見いだせないと、張りのぬけた生活におちいりやすい。

なお、子どもたちが寝る時刻は、ほぼ以下のとおりだという。

|         |       |
|---------|-------|
| 午後9時までに | 1.6%  |
| 11時までに  | 7.1%  |
| 12時までに  | 34.0% |
| 午前1時までに | 41.4% |
| 2時までに   | 15.9% |

表11 帰宅後していること×進路  
——進学者は、読書、新聞、スポーツ——

| 項目<br>属性 | 音楽を<br>きく | 新聞を<br>読む | 趣味     | 読書     | ラジオ<br>をきく | 書の<br>手伝い | 家事<br>を手伝<br>う | スケ<br>ーリング | スカ<br>ーリング |
|----------|-----------|-----------|--------|--------|------------|-----------|----------------|------------|------------|
| 就職組      | (89.3)    | 69.4      | 64.5   | 42.1   | 47.9       | 67.8      | 50.8           | 14.0       | 6.0        |
| 専門学校     | 87.7      | 61.4      | (82.5) | 54.4   | 51.8       | (76.8)    | (60.5)         | 17.5       | 12.4       |
| 短大       | 79.6      | 72.0      | 75.3   | 51.4   | 49.0       | 76.0      | 56.9           | 19.2       | (16.5)     |
| やさしい大学   | 87.9      | 76.7      | 71.6   | 54.2   | (64.2)     | 47.0      | 33.4           | 25.3       | 9.0        |
| むずかしい大学  | 81.0      | (83.6)    | 67.6   | (63.7) | 58.7       | 50.2      | 28.3           | (31.7)     | 11.9       |
| その他      | 84.4      | 77.2      | 71.3   | 57.5   | 57.3       | 56.0      | 38.6           | 26.2       | 12.0       |

そうしたことをする割合

(%)

○ = 最頻値

~~~ = 最小値

夜中まで起きている生徒が57%と、半数を上まわっている。もちろん、こうした深夜族の中には勉学派が多いのであろうが、それと一緒に、子ども部屋の中でラジカセをきく、

そして、時には深夜放送に耳を傾けるといったタイプの生徒もみうけられよう。明日の朝が早いから、深夜まで起きていたのでは、眠くて起きにくい朝を迎えることになる。

表12 睡眠時間

—進学を考え始めると睡眠時間が短くなる—

(%)

| 属性
尺度 | 性 别 | | 学 年 别 | | 進 学 方 法 の 道 路 | | | | | 全 体 |
|----------|------|------|-------|------|---------------|-------|------|----------|-----------|------|
| | 男 子 | 女 子 | 1 年 | 2 年 | 公 勤 | 専 門 校 | 短 大 | やさし い大 学 | じずか しい大 学 | |
| 4 時間未満 | 5.9 | 3.7 | 3.8 | 5.4 | 7.5 | 4.4 | 1.2 | 3.3 | 6.3 | 4.8 |
| 5~6 時間 | 22.2 | 18.4 | 16.2 | 22.7 | 7.5 | 12.4 | 19.0 | 19.6 | 23.9 | 20.3 |
| 6~7 時間 | 42.4 | 43.0 | 42.0 | 43.4 | 40.8 | 38.3 | 47.2 | 42.8 | 43.5 | 42.8 |
| 7~8 時間 | 24.1 | 29.6 | 30.5 | 24.5 | 35.0 | 41.6 | 28.2 | 29.5 | 21.3 | 26.8 |
| 8 時間以上 | 5.4 | 5.3 | 7.5 | 4.0 | 9.2 | 3.3 | 4.4 | 4.8 | 5.0 | 5.3 |

図26 平日の平均睡眠時間

— 6~7 時間 —

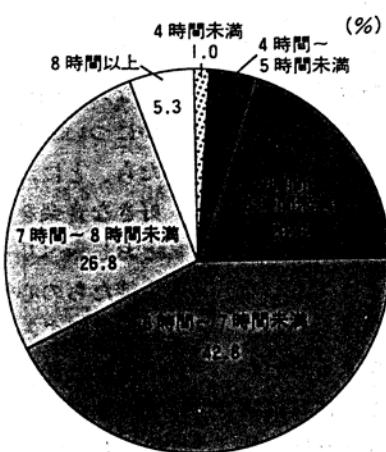
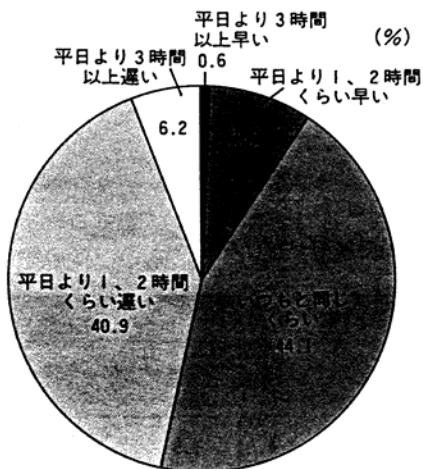


図27 ふだんの日にくらべて休日の前夜に寝る時間



4. 休日の暮らし

これまで、平日の行動をあとづけてみた。そこで休日の生活を簡単にふれておこう。図28に示したように、さすがに休日になると起床時刻が遅くなり、17%とほぼ2割弱の生徒は、10時過ぎまで目をさましていない。

そして表18によると、休日の起床時刻は、就職組がもっともきちようめんで、半数以上が、8時までに起床している。しかし、進学組の起床は遅くなりがちで、8時までに起きているのは3割前後すぎない。

これまで、進学組は、テレビを見る時間を減らし、早いうちから受験を意識して、夜遅くまで勉強するというような生活を送っていた。禁欲のかたまりのようで、そうでもしないと難関の大学へは入れないとと思うものの、データを見ているだけでも息のつまる思いがした。しかし、そうした生徒でも、休日は禁欲の看板をおろして、ちょっとばかり朝寝坊をする。休日の朝、11時過ぎまで寝ている生徒が1割に達したというあたりに、なんとなく救いに似たものを感じた。がんばっている

といっても、彼らもまた人の子なのである。

それでは、休日になんことをしているのか。図29によると、ゆっくり寝て、テレビを見、そして好きな音楽をきくのが、休日の暮らしとなる。

正直なところ、これでは平日の延長で、ふだんがまんしていることをちょっとやってみるのが、休日の暮らしという感じである。

なお、図30は、時間がふえたら何をしたいかについて尋ねた結果である。余裕が生まれたら、とにかくゆっくりと寝たい。そして、好きな音楽をきいてみたい。それに、友だちとおしゃべりをするのも悪くないというのが生徒たちの心情で、その次に、テレビや買い物が位置する。

睡眠と音楽、そして友が、生徒たちにとつての3つの願いだという。とても健全という気持ちもするが、なんとなく閉鎖された社会の中で暮らしていく、若さに欠ける感じがある。

念のために、属性別に集計した結果を示し

たが（表14）、成績上位群は、いろいろなことをしたいと思っている割合が多い。そうした生徒たちは、やる気に燃え、時間があった

ら何をしてみたいと思っている生徒なのである。

図28 休日の起床時刻

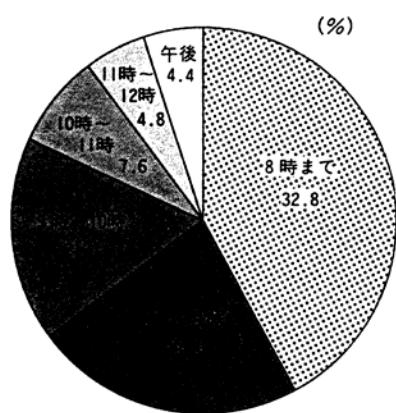


表13 休日の起床時刻

——進学組は休日はのんびり——

(%)

| 属性
起床時刻 | 性別 | | 学年別 | | 将来選択の進路 | | | | |
|------------|------|------|------|------|---------|------|------|----------|--------------|
| | 男子 | 女子 | 1年 | 2年 | 就職 | 専門学校 | 短大 | やさしい大・高大 | じぶんか
しい大学 |
| 8時まで | 28.7 | 37.1 | 28.7 | 35.3 | 51.6 | 42.0 | 39.2 | 28.8 | 30.9 |
| 8時～9時 | 27.8 | 30.8 | 28.7 | 29.6 | 17.2 | 23.7 | 29.0 | 32.2 | 30.2 |
| 9時～10時 | 22.4 | 19.9 | 25.6 | 18.4 | 17.2 | 23.7 | 20.0 | 19.6 | 21.8 |
| 10時～11時 | 9.1 | 6.1 | 9.0 | 6.6 | 7.4 | 4.4 | 7.1 | 9.1 | 6.9 |
| 11時～12時 | 5.9 | 3.5 | 5.4 | 4.5 | 4.1 | 4.4 | 3.1 | 5.3 | 5.1 |
| 午後 | 6.1 | 2.6 | 2.6 | 5.6 | 2.5 | 1.8 | 1.6 | 5.0 | 5.1 |

図29 休日についていること
—ゆっくり寝て、テレビを見る—

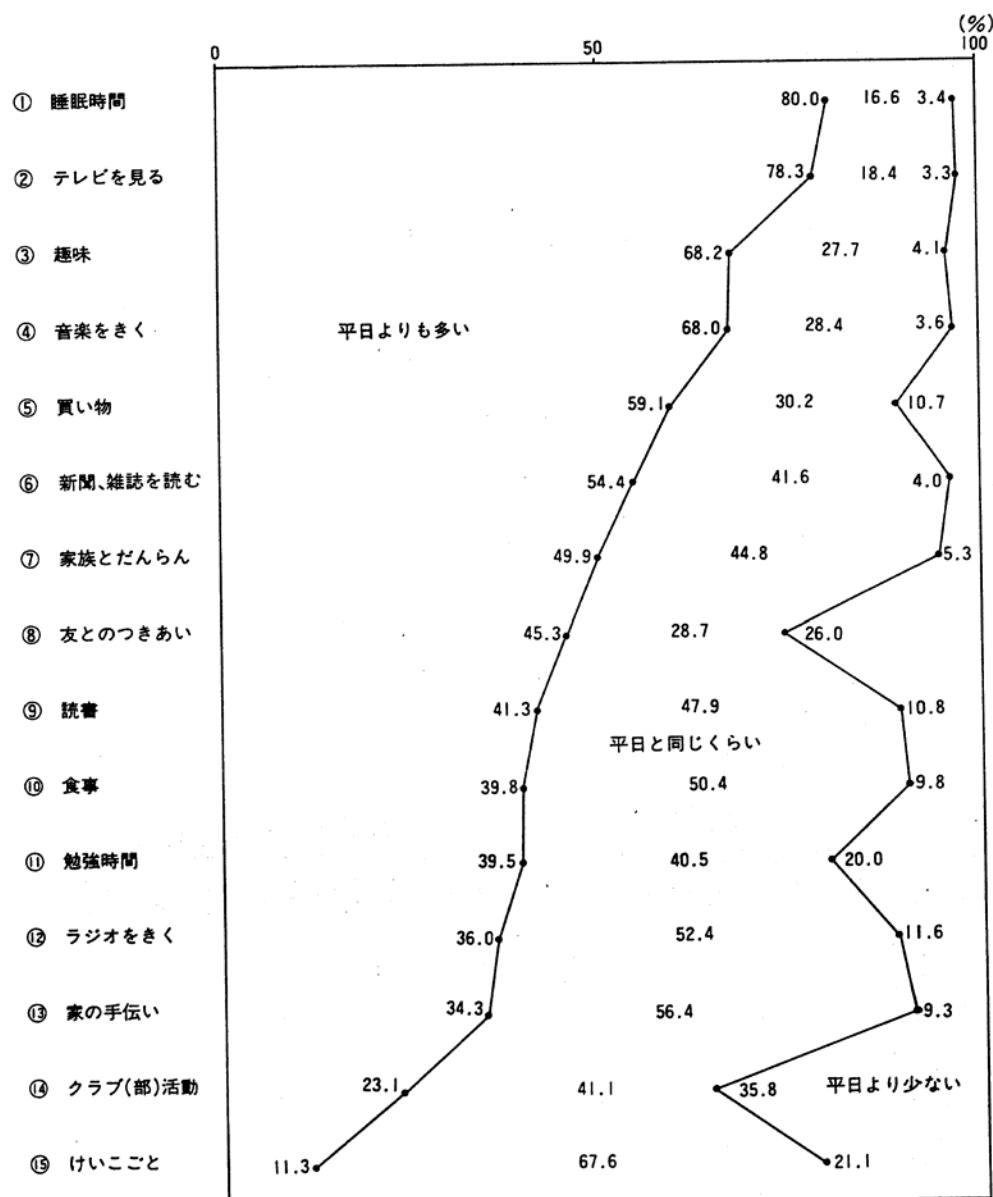


図30 時間がふえたら何をしたいか

——とにかく、ゆっくり寝てみたい——

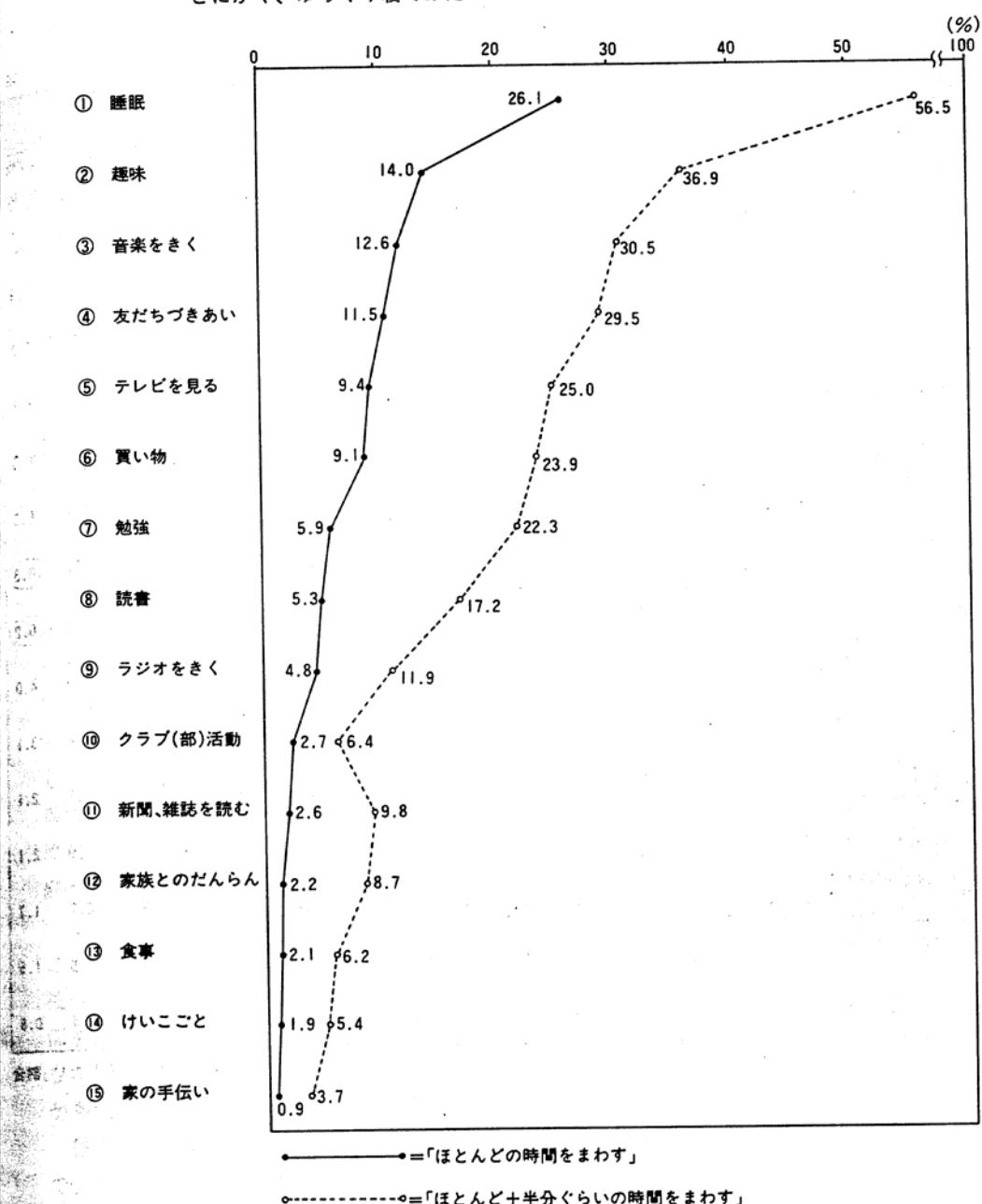


表14 時間がふえたらしいこと×属性

—成績上位群はいろいろなことをしたい

(%)

| 項目 | 全体 | 性別 | | 学年別 | | 成績別 | | | | | 他の属性 | | | | |
|---------|------|------|------|------|------|--------|------|------|------|--------|--------|--------|------|------|--------|
| | | 男子 | 女子 | 1年 | 2年 | 上 | 中の上 | 中 | 中の下 | 下 | 高 | 中 | 低 | 年大 | 年少 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① 運動 | 26.1 | 27.9 | 24.1 | 32.6 | 22.3 | (34.2) | 25.4 | 23.9 | 25.2 | 27.9 | (39.7) | 28.1 | 22.9 | 27.3 | 22.5 |
| ② 音楽 | 14.0 | 14.5 | 13.6 | 16.2 | 12.7 | (19.3) | 11.9 | 12.1 | 13.9 | 16.6 | (18.3) | 14.9 | 15.1 | 12.9 | 12.9 |
| ③ 美術 | 12.6 | 13.6 | 11.7 | 15.5 | 10.9 | 14.1 | 12.3 | 11.4 | 11.6 | (14.7) | 11.6 | (14.9) | 11.2 | 13.3 | 12.3 |
| ④ 友だちづけ | 11.5 | 9.4 | 13.6 | 15.4 | 9.3 | (15.3) | 9.7 | 11.6 | 11.5 | 12.0 | 18.2 | (19.3) | 13.8 | 11.3 | 8.4 |
| ⑤ テレビ | 9.4 | 10.2 | 8.5 | 12.4 | 7.6 | (12.0) | 9.1 | 9.5 | 8.5 | 9.6 | 10.8 | 8.8 | 11.9 | 10.3 | 8.0 |
| ⑥ 買物 | 9.1 | 6.0 | 12.1 | 11.9 | 7.4 | (14.0) | 7.7 | 8.8 | 9.0 | 9.1 | 13.1 | (14.3) | 12.6 | 7.9 | 6.0 |
| ⑦ 旅行 | 5.9 | 8.1 | 3.8 | 2.9 | 7.7 | (13.2) | 5.3 | 5.5 | 6.0 | 4.7 | 4.1 | 1.8 | 4.3 | 3.6 | (10.3) |
| ⑧ クラブ | 5.3 | 5.0 | 5.6 | 4.8 | 5.6 | (8.0) | 3.9 | 3.8 | 5.8 | 7.0 | 2.6 | 5.3 | 3.2 | 4.6 | (6.2) |
| ⑨ おもちゃ | 4.8 | 5.8 | 3.7 | 6.5 | 3.7 | 6.0 | 5.1 | 4.4 | 3.9 | 5.3 | 3.4 | 4.4 | 3.5 | 6.3 | 4.0 |
| ⑩ クラブ活動 | 2.7 | 3.7 | 1.6 | 3.2 | 2.5 | (7.2) | 2.1 | 1.7 | 2.3 | 3.5 | 4.5 | 0 | 0.9 | 2.6 | 3.1 |
| ⑪ おもとみ | 2.6 | 3.0 | 2.2 | 2.4 | 2.7 | 6.0 | 1.7 | 1.6 | 2.8 | 3.3 | 0.8 | 0 | 2.8 | 3.5 | 2.1 |
| ⑫ おもとみ | 2.2 | 1.5 | 2.8 | 2.1 | 2.2 | 6.0 | 1.0 | 2.3 | 2.1 | 2.0 | 2.5 | 1.8 | 4.0 | 1.9 | 2.1 |
| ⑬ おもとみ | 2.1 | 2.2 | 2.0 | 2.1 | 2.0 | 6.6 | 1.4 | 1.3 | 1.8 | 2.4 | 1.7 | 0.9 | 3.1 | 2.7 | 1.7 |
| ⑭ おもとみ | 1.9 | 1.5 | 2.3 | 2.3 | 1.7 | 3.6 | 1.6 | 1.1 | 1.6 | 2.9 | 2.9 | 0 | 2.3 | 1.5 | 1.1 |
| ⑮ おもとみ | 0.9 | 0.7 | 1.0 | 0.6 | 1.0 | 3.3 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 1.6 | 2.5 | 0 | 0.4 | 0.4 | 0.1 |

「そういうことをしたい」割

まとめに代えど

昨年の夏、アメリカに滞在していた時、高校の卒業式に出会った。9月入学であるから、卒業式は7月に入ってからで、地域の中で卒業パーティが行われる。

日本でも、毎年3月末の卒業時には、はかまスタイルの女子大学生の姿が歳時記になつた感がするが、アメリカの場合、高校生でもなんともはなやかな感じがする。ビールを含めて、お酒がどんどん出てきて、しかもアルコールというより、清涼飲料水といったふんい気で、コップがからになる。それと、ステディは当然のこととして、カップルが自然に誕生して——もちろん、はじめから、カップルになっているペアも多いが——、明るい感じだが、セクシイなふんい気がただよう。それと、音楽性が豊か——というより、騒音の感もするが——で、どの子もそれなりに音楽に参加しているなど、日本流におきかえると、原宿や六本木のディスコを小ぶりにして、家庭へ持ってきたというようなパーティが多い。

このレポートを書いていて思い出したのは、こうしたアメリカの高校生と比べ、日本の高校生たちは、アルコール、異性、音楽のどの面をとっても、禁欲的という感想であった。なんのかんのといっても、まじめな生徒たちが多い。

彼らは、家庭と学校という二つの制度の中で、いわば秩序に従って生活をしている。彼らの心の中にも、もう少し充実して伸び伸び

とした生活を送りたいという気持ちは宿っている。しかし、居心地のよい家庭に逆らう気になれないし、将来を考えれば、勉強も必要というので、学校生活に適応している。

そして、よほどのことがない限り、そうした枠の内から飛び出せない。正直なところ、素直でまじめな生徒たちの息抜きの場がどこなのか知りたいと思った。

冒頭で、このところの若者論を概観したが高校生を対象としたこのデータに関する限り、トランスポゾンやスキゾのかけらも感じられなかった。

高校を卒業し、大学に入る。あるいは企業の一員となる。そうなると、学校の規制力が弱まり、家からのコントロールもききにくくなる。そうしたとき、歯止めが失われたように、若者たちの心の内にあったものが顕在化し、開花しあはじめる。それが、スキゾの形をとるのであろう。

そうした意味では、高校生は、社会人としてはばたく前の、からに籠っている時期なのであろうか。まゆの中で、じっと時が来るのを待つ。その潜伏期が高校生の頃で、高校生活を終わると、メタモルフォーゼ（変身）をして、若者文化を満喫する時代に入る。そう思えば一見したところ、禁欲的で、若さに欠けるような生徒たちの毎日も、嵐の前の静けさにも似た時だと思うと、それはそれでよいのでは、という気がしてきた。